

認定特定非営利活動法人
オールしずおかベストコミュニティ

～ 令和元年度活動のご紹介 ～

- I メディアで紹介されたオールしずおかベストコミュニティ
- II 写真で見るオールしずおかベストコミュニティ



目次

I メディアで紹介されたオールしずおかベストコミュニティ

広報実績一覧 1) 新聞 オールしずおかベストコミュニティ	4
広報実績一覧 1) 新聞 みらーと 2) 雑誌 3) テレビ	5
①子ども食堂赤い羽根バースデイ かんがる一隊子ども食堂	6
②・③谷島屋サンストリート浜北店「福祉応援フェア」6月 / ④静岡まるごとネット通販	7
⑤静岡まるごとネット通販	8
⑥しずおか授産品ブランド / ⑦サントムーン柿田川 販売会 8月	9
⑧地域がつながり仲間たち NPO 法人オールしずおかベストコミュニティ	10
⑨大和リゾート THE HAMANAKO「遠州織物フェア」 / ⑩とも沼津店「夏の大感謝祭」	11
⑪浜松いわた信用金庫 きらりタウン支店 障がい者アート作品展 / ⑫静岡県労働金庫 CSR	12
⑬ふじのくにソーシャル・グッズ・コンテスト (第 22 回静岡県授産製品コンクール)	12
⑭ふじのくにソーシャル・グッズ・コンテスト / ⑮農福連携しずおか野外マルシェ	13
⑯研修情報部会運営自主研修 防災研修 / ⑰第 21 回静岡県障害者芸術祭、ふじのくにソーシャル・グッズ・コンテスト表彰式	14
⑱ヘルプマーク推進フォーラム / ⑲とも静岡店「クリスマスフェア」	15
⑳ふじのくにソーシャル・グッズ・コンテスト受賞紹介 / ㉑サントムーン柿田川 販売会 12月	16
㉒ふじのくにソーシャル・グッズ・コンテスト受賞紹介	17
㉓社説 ヘルプマーク普及 共生社会 実現のために	18
㉔カフェ就労 / ㉕富士信用金庫 大淵中野支店 (CSR) 障がい者アート展 / ㉖とも沼津店「ふじのくに福産品フェア」	19
㉗新春講演会 / ㉘静岡県庁「ふじのくに福産品バレンタインフェア」	20
㉙静岡県庁「ふじのくに福産品バレンタインフェア」 / ㉚静岡信用金庫 (CSR) ビジネスマナー研修	21
㉛中日本高速道路株式会社 東京支社 浜松保全・サービスセンター (CSR) 交通安全啓発品	22
㉜「高松宮妃のおひなさま展」販売会 / ㉝静岡県交通安全協会 浜松中央地区支部 (CSR) 交通安全啓発品	23
㉞静岡県交通安全協会 浜松中央地区支部 (CSR) 交通安全啓発品	24
㉟・㊱国際ソロプチミスト浜松 (CSR) 記念品に地元授産製品	25
㊲静岡県障害者文化芸術活動支援センター みらーと 西部&東部拠点開設	26
㊳社説 障害者の芸術活動 官民で自立環境整備を	27
㊴・㊵みらーと 5月展	28
㊶みらーと西部拠点6月展	29
㊷みらーと西部拠点6月展 / ㊸みらーと東部拠点6月展	30
㊹みらーと西部拠点9月展	31
㊺パフォーミングアーツフェスタ Look@me / ㊻ウェルカム・アーツ 21展	32
㊼ウェルカム・アーツ 21展 / ㊽みらーと西部拠点協力6人展	33
㊾みらーと東部拠点 著作権研修	34
㊿みらーと著作権研修	35
㊱みらーと東部拠点 支援人材育成セミナー / ㊲みらーと西部拠点 障がい者アート展示会	36
㊳宮城まり子さん追悼	37
㊴静岡ビジネスレポート Report 企業産業レポート	38

※記事・画像等は、新聞社・雑誌社の許諾を得て、日付順に転載しています。

II 写真で見るオールしずおかベストコミュニティ

1) ふじのくにソーシャル・グッズ・コンテスト、販売促進研修、令和元年度 第 21 回静岡県障害者芸術祭	39
ふじのくにソーシャル・グッズ・コンテスト受賞作品展示 / 2) 新春講演会	40
3) こども食堂赤い羽根バースデイ こども食堂誕生日会・授産製品応援事業	41
4) 部会活動 研修情報部会による研修会 ①～④	41
5) 静岡県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」 A. 発表等の機会創出 ①～⑤	42
A. 発表等の機会創出 ⑥ / B. 支援人材育成 B-1 支援人材育成研修 ①～④	43
B-1 支援人材育成研修 ⑤～⑨	44
B-2. ワークショップ ①～④ / B-3. オープンアトリエ ①～③	45

広報実績 1) 新聞

■ オールしずおかベストコミュニティ

No	掲載日	新聞社名	地域	記事見出し
①	5/9	静岡新聞		子ども食堂でケーキで誕生会 県共同募金会が助成 福祉事業所の製品お届け 19年度拡充、希望受け付け
②	6/18	静岡新聞	西部版	福祉施設利用者の製品 600点を販売 浜北区、来月21日まで
③	6/20	中日新聞	西部版	福祉施設利用者が作った雑貨を見て 浜北で販売フェア
④	7/11	静岡新聞		授産品ネット通販開始 認定NPOと運営サイト連携
⑤	7/20	富士ニュース		県域ネット 産業・暮らし・イベント 授産品をネット通販 8月から 特支生の事務雇用促進も
⑥	7/24	静岡新聞	東部版	「みしまうなぎ野菜パン」授産品ブランド認定 NPO法人が市長に報告
⑦	8/5	静岡新聞	東部版	障害者ら手作り 木工品など並ぶ 清水町で販売会
⑧	8/8	中日新聞		地域がつつなぐ仲間たち 障害者の活動を支援 NPO法人オールしずおかベストコミュニティ
⑨	8/15	静岡新聞	西部版	【西区】遠州綿紬使った300点展示販売
⑩	8/21	静岡新聞	東部版	【沼津】4福祉事業所の授産製品販売
⑪	9/4	静岡新聞	西部版	【浜北区】障害者アート展、20作品並ぶ
⑫	10/17	静岡新聞		障害者就労支援に17万円余を寄贈 県労働金庫
⑬	10/22	静岡新聞		自慢の施設製品 出品 静岡 アイデアなど審査
⑭	10/23	中日新聞		福祉事業所の製品で知事賞 遠州織物エプロンなど
⑮	10/24	静岡新聞		障害福祉事業所が農作物など出品 静岡でマルシェ
⑯	12/7	静岡新聞		障害者施設の防災考える 葵区 被災経験者招き研修
⑰	12/12	静岡新聞		福産品受賞団体を表彰 静岡でイベント
⑱	12/14	静岡新聞		「ヘルプマーク」理解訴え 沼津で当事者らフォーラム 有用性紹介、要望も
⑲	12/14	静岡新聞		ツリーや装飾品でクリスマス演出 きょうまで葵区
⑳	12/15	日刊静岡		県の福祉製品コンテストで入賞 ステップ・ワンのミニホワイトセロリ 御殿場
㉑	12/16	静岡新聞	東部版	障害福祉6事業所 清水町で製品販売
㉒	12/18	静岡新聞	東部版	福産品グッズコンテスト 三島の2施設、知事賞 市長に報告
㉓	12/30	静岡新聞		社説 ヘルプマーク普及 共生社会実現のために
㉔	1/21	静岡新聞		障害者の就労支援考えるイベント 来月8日、葵区
㉕	1/22	静岡新聞		【富士】障害者の作品集展示会
㉖	1/23	静岡新聞		【沼津】福産品展、ラスクなど並ぶ
㉗	1/26	静岡新聞		障害者の就労支援語る 社会福祉法人理事が講演 駿河区
㉘	2/7	中日新聞		バレンタインには「ふじのくに福産品」チョコやケーキ 県庁で展示販売
㉙	2/8	静岡新聞		障害者「福産品」チョコ販売 県庁でフェアバレンタインへ強化
㉚	2/15	静岡新聞		障害者施設職員と利用者 ビジネスマナー学ぶ 葵区で研修
㉛	2/21	中日新聞	西部版	春の全国運動でドライバーらに 交通安全願い コースター製作 南区の「くるみ」利用者
㉜	2/24	静岡新聞		宮家ゆかりの京びな展 来月8日までグランシップ
㉝	3/12	静岡新聞	西部版	【中区】事業所利用者が交通安全啓発品
㉞	3/13	中日新聞	西部版	みみの里 ワークワーク 第二くるみ 交通安全の啓発品託す メモ帳やボールペン、ノート
㉟	3/24	静岡新聞	西部版	【中区】制作のマルチケース寄贈
㊱	3/24	中日新聞	西部版	遠州綿紬ケース記念品に ソロプチ浜松40周年 三ヶ日の事業所製作

■ 静岡県障害者文化芸術活動支援センター みらーと

No	掲載日	新聞社名	地域	記事見出し
③⑦	5/10	静岡新聞		障害者芸術家を育成 浜松、沼津にも拠点開設 今月から県支援センター
③⑧	5/23	静岡新聞		社説 障害者の芸術活動 官民で自立環境整備を
③⑨	5/29	静岡新聞		障害者の芸術作品紹介 静岡、31日まで
④⑩	5/30	中日新聞		障害ある作家の考え伝わる 葵区 貼り絵や絵画の作品展
④①	6/26	中日新聞		障害者アート 彩り豊か 浜松の支援拠点 初の作品展
④②	6/26	静岡新聞		【浜松】障害者の絵画展、個性豊かに
④③	6/27	静岡新聞		【沼津】福祉事業所利用者の絵画並ぶ
④④	9/11	静岡新聞	西部版	展示会開催の基本学ぶ 中区 障害者ら会場設営
④⑤	9/17	静岡新聞		障害者らファッションショー 「みらーと」1周年でフェスタ 葵区
④⑥	10/4	中日新聞		障害者ら個性 絵画力作 県庁で作品展 ラグビー選手や風景
④⑦	10/5	新聞新聞		ラグビー W杯盛り上げ 県庁「ウエルカム・アーツ 21 展」 リーチ主将描いた絵画も
④⑧	10/8	静岡新聞	西部版	心温まる障害者アート 31日まで掛川 6人の絵画 34点展示
—	10/18	読売新聞		イベント 障害者アート作品展「みらーと協力 六人展」(29面)
④⑨	1/16	静岡新聞	東部版	障害者の著作権保護へ 三島でセミナー 福祉施設職員ら受講
⑤⑩	1/29	静岡新聞		障害者の著作権守る重要性確認 葵区で研修
⑤①	2/12	静岡新聞	東部版	障害者の芸術活動支援 清水町で人材育成セミナー 展示会設営作業を实践
⑤②	2/28	静岡新聞		【浜松】障害者が手掛けた絵画や書 50点
⑤③	3/23	静岡新聞		子どもに芸術 命注ぐ 宮城まり子さん 最期まで病床から指導 障害者アートの先駆者

広報実績 2) 雑誌

No	掲載日	雑誌社名	記事見出し
⑤④	11/15	Shizuoka Business Report No.1417	企業産業レポート 静岡県労働金庫 オールしずおかベストコミュニティに 17万 8320円を寄付

広報実績 3) テレビ

No	放送日	媒体	社名	内容
1	6/13	ケーブルテレビ	トコちゃんねる 静岡	12:00～ トコチャンワイド トコナビ 県障害者文化芸術活動支援センター みらーと
2	9/17	テレビ	NHK 静岡	NHK ニュース 18:45～たっぷりしずおか など 障害のある人たちのファッションショー 静岡市葵区
3	9/20	ケーブルテレビ	トコちゃんねる 静岡	12:00～ トコチャンワイド トコナビ パフォーミング フェスタ Look@me!
4	10/3	テレビ	NHK 静岡	NHK ニュース 18:45～たっぷりしずおか など Welcome ようこそ静岡へ ウェルカムアーツ 21 展
5	10/3	テレビ	Daiichi TV	news every. しずおか W杯観戦客をアートでおもてなし ラグビーファンを歓迎力作ずらり 障がい者アート展
6	10/10	テレビ	NHK 静岡	NHK ニュース 18:45～たっぷりしずおか など ぬくもり工房福祉応援フェア
7	10/28	テレビ	NHK 静岡	NHK ニュース 18:45～たっぷりしずおか など 掛川 障害あるアマチュア画家の絵画展

子ども食堂 ケーキで誕生会

県共同募金会が助成

赤い羽根共同募金を集める県共同募金会が2018年10月から、「子ども食堂赤い羽根バースデー」に取り組んでいる。障害者が働く福祉事業所で作ったケーキや焼き菓子などを子ども食堂の誕生日会に無料で届ける。大人数で誕生日を祝う機会を子どもにも提供すると同時に、障害者の工賃向上につながる取り組みが好評で、19年度は助成額を拡充した。

4月中旬、沼津市の子どもたちの姿に、母親と親家庭の親子らが集まり「ホールケーキだまる」「かんがる」隊子と子どもとの反応が全然違「おいしい」と頷張る勢にお祝いでらう経



福祉事業所から届いたケーキを切り分ける子どもたち
4月中旬、沼津市内

福祉事業所の製品お届け

験はなかなかない。誕生日の歌を初めて歌ってもらって照れちゃった、と言う子もいた」と歓迎した。

ケーキなどを手掛けたのは精神障害者など約30人が働く富士市の就労継続支援B型事業所「きさらぎ富士」。昨年の事業開始時に生ケーキの調理を始め、毎月違う味やデザインに挑戦している。

焼き菓子作りでスポンジ

「受注生産のためロスがなく、売り上げをそのまま工賃に還元できるのが大きい」と意義を話した。

子ども食堂と福祉事業所との調整は、障害者の工賃向上を支援するNPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」が

「受注生産のためロスがなく、売り上げをそのまま工賃に還元できるのが大きい」と意義を話した。

子ども食堂と福祉事業所との調整は、障害者の工賃向上を支援するNPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」が

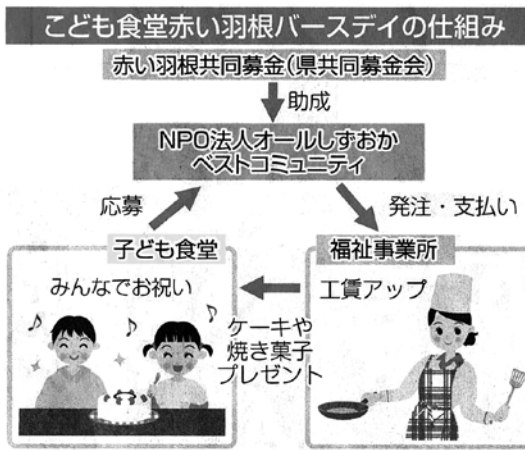
「受注生産のためロスがなく、売り上げをそのまま工賃に還元できるのが大きい」と意義を話した。

子ども食堂と福祉事業所との調整は、障害者の工賃向上を支援するNPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」が

19年度拡充、希望受け付け

県共同募金会による2018年度の「子ども食堂赤い羽根バースデー」事業の助成額は250万円。半年間に福祉事業所9カ所から子ども食堂35カ所に計416セットのケーキなどを届けていた。19年度は600万円に拡大して実施する。

NPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」では、19年度の希望者を子ども食堂から受け付けている。助成の対象は、県内の非営利団体が運営する子ども食堂で20年3月31日までに開かれる誕生日イベント。1セット5千円相当のケーキや焼き菓子を、子ども食堂の規模に応じてプレゼントする。



希望団体は同法人ウェブページの応募フォーム、またはウェブ上の応募用紙をダウンロードしてファクスで申し込む。締め切りは第1次が5月31日、第2次が9月30日。

問い合わせは同法人
△電054(251)3515へ。

福祉施設利用者の製品600点を販売
浜北区、来月21日まで
浜松市内の福祉サー
ビス事業所の利用者の
手作り品販売会「福祉



福祉サービス事業所の利用者が作った品が並ぶコー
ナー。浜松市浜北区の谷島屋サンストリート浜北店

「福祉応援フェア」が17日、
浜北区平口の谷島屋サ
ンストリート浜北店で
始まった。14施設の利
用者が7月21日まで、
縫製品や木工品など約
600点を並べてい

障害者福祉の向上に取り
組む認定NPO法人「オー
ルしずおかベストコミュニ
ティ」はこのほど、インタ
ーネット通販サイト上で授
産品の販売を始めた。県の
「しずおか授産品ブランド」
に認定された製品を中心
に、販売態勢の強化を進め
ている。

授産品 ネット通販開始

認定NPOと運営サイト連携

などを手掛ける松本産業
(富士市)の子会社「協役
商品」が運営している。同
社は障害者の自立を支援す
るため、県内の実店舗で授
産品販売を手掛ける同法人
と連携してネット販売に乗
り出したという。

販売製品はオリブコー
ヒーやブック型お薬手帳、
遠州綿紬(つむぎ)カード
ケースなど。今後、取扱商
品数を増やすとしている。

④ (令和元年7月11日・静岡新聞)

る。
ブックカバーやペン
ケース、写真立てなど
の雑貨やオリブ入り
のせつけん、かわいら
しい絵が描かれたクリ
アファイルなどが売ら
れている。販売会は、
静岡市葵区のNPO法
人「オールしずおかベ
ストコミュニティ」が、
障害者の工賃向上につ
なげようと谷島屋の協
力を得て毎年行ってい
る。

② (令和元年6月18日・静岡新聞 西部版)

福祉施設利用者が
作った雑貨を見て
浜北で販売フェア
障がいのある人たちが作
った雑貨などを販売するフ

※株式会社 谷島屋様では、地域貢献の思いから福祉事業所
製品の周知と販路拡大のため、静岡県内の店舗において
定期的に販売会「福祉応援フェア」を当法人が主催し開
催していただいております。

並ぶ。布製のブックカバー
(八百円)、竹の皮ででき
たしおり(二百二十円)も
ある。内藤賢久店長は「地
域に貢献でき、障がいのあ
る人の賃金アップにつなが
ればうれしい」と話した。
(宮沢輝明)

障がいのある人たちが作っ
た製品。浜松市浜北区で



エアが、浜松市浜北区の大
型商業施設「サンストリー
ト浜北」内の書店・谷島屋
サンストリート浜北店で七
月二十一日まで開かれてい
る。

木製スマホスタンド(千
五百円)や陶製の小鉢(四
百円)など市内十四の福祉
施設利用者が作った製品が

③ (令和元年6月20日・中日新聞 西部版)

授産品をネット通販

8月から 特支生の事務雇用促進も



認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティは8月から、県の委託を受け、ウェブサイトで静岡まるごとネット通販にて授産品の販売を開始する。工賃の向上と、障害の有無に関係なく安心して暮らせる社会の実現を目指す。

県域ネット

産業・暮らし・イベント



取扱商品の一例「上リインターネット」で商品の入力作業に当たる渡邊さん(右)

同NPOによると、授産品は生産数や利益幅が少なく、ウェブ通販の商品として敬遠される傾向にあるという。

ゴム部品を扱う松本産業(富士市津田町)の子会社が運営。県の特産品に加え授産品の食品や縫製品、木工品、日用品、伝統工芸、サービスなどを取り扱う。掲載は無料で、売り上げの中から手数料を支払う。

同社はウェブ通販のノウハウがあり、配達と集荷のインフラを持っていてのことから同NPOと連携して授産品のブランド化と企業のCSRを推進。併せて、障害者の雇用促進にも取り組んでいる。通販サイトの構築作業は、インターネットで受け入れている富士特別支援学校富士宮分校の生徒が担当。生徒の就職先に事務系が少ない

ことから経験を積んで企業にアピールしてもらおう。企業へも受け入れの可能性を周知していく。作業を担当する同分校の渡邊蓮さん(高校2年)は、授業やパソコン部の活動で技術を高め、障害者が技能を競う静岡アピリンピックで入賞している。

素早く正確な入力に加え関数も活用し、1日に50~60点の商品を登録。「今まで取り組んできたことを生かし、楽しく作業している。今後も経験を積んでコンピュータ関係の職業に就きたい」と話す。事業を担当する企画部の佐藤公大さんは「サイトの知名度を上げ、一生懸命作業に取り組む障害者と優れた品質を多くの人に知ってもらいたい。取り組みが全国に広がっていくことも期待している」と、事業への思いを話した。

同サイト(https://shizukamanago.net/)

「みしまうなぎ野菜パン」 授産品ブランド認定 NPO法人が市長に報告

NPO法人にしのか
け橋（三島市）の鈴木
俊昭理事長らが23日、
市役所に豊岡武士市長
を訪ね、同NPOが運
営する就労支援A型事

業所ワンルーチェの製
品「みしまうなぎ野菜
パン」が、県の「しず
おか授産品ブランド」
に認定されたことを報
告した。



しずおか授産品ブランド認定の報告に訪れた鈴木
理事長や利用者ら＝三島市役所

ウナギの骨や皮など
を肥料に無農薬で育て
たケールやトマトなど
の「三島うなぎやさしい」
を使った総菜パンで、
昨年12月に販売を開始

した。優れた授産品を
PRする同ブランドの
認定を受けたことで県
の冊子に掲載されるほ
か、ブランドマークの
シールを貼って販売で
きる。昨年9月までに
応募のあった58事業所
91品の中から選ばれ
た。

うなぎ野菜パン作り
を担当する施設職員や
利用者も市役所を訪れ
た鈴木理事長は「より
一層自信を持ってパン
作りに取り組める」と
話した。豊岡市長は「こ
れを契機にさらにうな
ぎ野菜パンを広めてほ
しい」とエールを送っ
た。

⑥(令和元年7月24日・静岡新聞 東部版)

※記事にある「しずおか授産品ブランド」は、
静岡県より委託を受け当法人が各福祉事業所
の意向に則した専門家を派遣し、さらに魅力
のある商品を目指して改良を行う個別支援を
行いました。

障害者ら手作り 木工品など並ぶ

清水町で販売会

認定NPO法人「オ

ールしずおかベストコ
ミュニティ」（静岡市

葵区）は4日、県東部
の5福祉事業所で働く
障害者たちが作った製
品の販売会を清水町の



店頭に並んだ製品を手にする
家族連れ＝清水町玉川のサン
トムーン柿田川

サントムーン柿田川で
開いた。
戸田塩を使ったクッ
キーや県東部産のヒノ
キを使った木工品など
約50品目が並んだ。事

も販売する。
「福祉のお店とも」で

業所の職員や
障害者が店頭
に立つて接客
したほか、親
子連れに向け
てペットボト
ルを使った風
鈴作りやパス
テルアート体
験などのワー
クショップも
開いた。
本年度はク
リスマスシー
ズんと乗春にも販売会
の開催を予定してい
る。今回並んだ製品の

⑦(令和元年8月5日・静岡新聞 東部版)



171

NPO法人オールしずおかベストコミュニティ

県の委託を受け、障害者の就労や工賃アップ、文化芸術活動を支援し、障害者と地域、企業をつなぐ橋渡しを続けている。

障害者が自立するには、働いて賃金を得ることが不可欠だ。事務局長を務める鈴木良夫さんは「月収を三万円にし

たいと活動しているが、現状は一・五万円。この十年で三千円しか上がっていない」と説明する。授産品の品質向上や販路の拡大など売り上げ増に知恵を絞る。

障害者の活動を支援

障害者の就労先確保のため、営業や経理など企業の第一線で活躍してきた「コーディネートター」が民間企業を訪問している。二〇一八年度の実雇用確認数は五百八十一人と四年前に比べ二・五倍の結果を残した。

二〇年開催の東京五輪・パラリンピックに合わせ、県は文化芸術活動の支援に力を入れる。一八年度より障害者文化芸術活動支援センターの運営を受託し、障害者の創作支援にも重点を置いている。

今年二月、静岡市葵区で開いた「障害者モデルファッションショー」は多くの観客を集めた。ショーを企画運営した支援コーディネートターの藤田博史さんは「デザインを専攻する専門学生がメーキャップに協力してくれたほか、衣装の提供もあった。出演者も『社会に認められた』と自信を深める機会になった」と振り返る。

センターの開設一周年を記念し、九月十五日午後、JR静岡駅北口地下イベントスペースで第二弾のショーを開く。当日出演するモデルを集めている。(同センター) 054(251)3520 (沢田佳孝)



今年2月にあった障害者モデルファッションショー。静岡市葵区で

⑧ (令和元年8月8日・中日新聞)

【西区】遠州綿紬を使った300点展示販売

浜松市内の障害者施設の合同展示販売会「遠州織物フェア」が9月1日まで、同市西区雄踏町のダイワロイヤルホテル「ザ浜名湖」で開かれている＝写真＝。ホテル内の常設売場の面



積を3倍に広げ、伝統織物「遠州綿紬（めんつむぎ）」を使って製作したバッグやカード入れ、エプ

ロン、弁当袋など約300点を取りそろえた。

障害者を支援する認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティ西部地区センター（同市中区）が企画し、夢ワークたちばな、ワークショップくるみ、だんだん、引佐草の根作業所の4施設の利用者が出品した。宿泊客の増える夏休みに合わせ、遠州綿紬と各施設の製品を広く知ってもらおうのが目的という。

販売は午前7時から午後9時まで。

⑨（令和元年8月15日・静岡新聞 西部版）

【沼津】4福祉事業所の授産製品販売

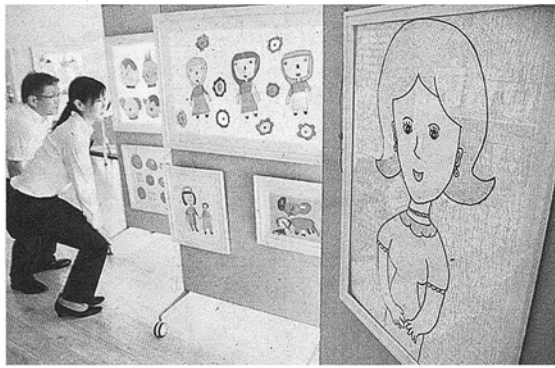
県東部の4福祉事業所が出店する授産製品の即売会「夏の大感謝祭」（認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティ主催）が20日、



沼津市大手町の「とも沼津店」前で始まった＝写真＝。21日まで。

地元産の愛鷹茶を使ったラスクやシフォンケーキなどの菓子をはじめ、アクセサリやハンカチなど、障害者が手作りした約40種類が並んだ。来場者は手に取って眺めたり、事業所職員の説明を聞いたりしながら買い物を楽しんでいた。

⑩（令和元年8月21日・静岡新聞 東部版）



浜北区 障害者アート展、20作品並ぶ
NPO法人オールしずおかベストコミュニティ（静岡市葵区）は30日まで、生活介護事業所「ゼロベース三ヶ日」（浜松市北区）の利用者が出展した障害者アート展を浜北区染地台の浜松いわた信用金庫きらりタウン支店で開いている＝写真＝。約20点が並ぶ。土日休み。

30～60代の5人が、寄贈されたコンパネ板やクレヨンなどで人物や動物などを描いた。顔を大きく強調した女性の立ち姿や、体の部位ごとに色を塗り分けたゾウなど特徴的な表現の作品が集まった。同事業所の展示会が三ヶ日地区以

①（令和元年9月4日・静岡新聞 西部版）

外で開かれるのは初めてといい、平沢文彦施設長(45)は「どんな反応があるか楽しみ」と話す。

障害者就労支援に17万円余を寄贈
県労働金庫（古川正明理事長）は15日、障害者の就労支援事業に取り組み「NPO法人オールしずおかベストコミュニティ」に17万8320円を寄付した。SDGs（持続可能な開発目標）達成に向けた地域貢献の一環。



静岡市内で開かれた贈呈式で、古川理事長が、同法人の鈴木良夫専務理事に目録を手渡した＝写真＝。寄付金は2018年度、無担保ローン「役立宣言」の利用1件あたり20円を同金庫が拠出した。同法人は寄付金を就労支援に充てる。

②（令和元年10月17日・静岡新聞）

自慢の施設製品出品

静岡アイデアなど審査

県内の障害者福祉施設などで作られた製品を審査する「ふじのくにソーシャル・グッズ・コンテスト」（NPO法人オールしずおか福祉施設など43カ所



障害者福祉施設などで作られた製品が並ぶ審査会＝静岡市葵区

が食品、縫製品、雑貨品の3部門に計53点を出品。特別支援学校の生徒が仕上げた8点も発表された。専門学校や工房の関係者らが審査を務め、品質やアイデアなどをチェックした。主な結果は次の通り。

【知事賞】食品 うなぎやさいそうめん（アルシオン）▽縫製品 くるみすもつく（ワークシヨップくるみ）▽雑貨品 木のおもちや（さわし作業所）【市民審査員賞】アームドチュイル（暁）【特別支援学校部門金賞】ウッドランプ（県立袋井特別支援学校磐田見附分校クラフト班）

③（令和元年10月22日・静岡新聞）

福祉事業所の製品で知事賞 遠州織物エプロンなど

障害者福祉事業所の製品
の出来栄を競う「ふじの
くにソーシャル・グッズ・
コンテスト」が、静岡市葵
区の障害者働く幸せ創出ゼ
ンターで開かれた。県内の
四十三事業所が食品、雑
貨、縫製品の三部門に計五
十三点を出品し、十三人の
審査員が審査した。
その結果、県知事賞には
ウナギの残さを肥料にして



縫製品部門で県知事賞
の「くるみすもっく」



食品部門で県知事賞の「うなぎやさいそうめん」



雑貨部門で県知事賞の「木のおもちゃ」

育てた野菜を練り込んだ
「うなぎやさいそうめん」
(就労継続支援B型事業所
アルシオン、三島市)、県
内産ヒノキを使った「木の
おもちゃ」(就労継続支援
B型事業所さわじ作業所、
同市)、遠州織物を使ったエ
プロン「くるみすもっく」
(フークショップくるみ、浜
松市南区)が選ばれた。
特別支援学校八校も参加
し、袋井特別支援学校磐田
見付分校の「ウッドラン
プ」が金賞を受賞した。
コンテストは二十二回目
で、「県授産製品コンクー
ル」から改称した。十二月
七日にJR静岡駅北口地下
広場で表彰式がある。
(三宅千智)

※ふじのくにソーシャル・グッズ・コンテスト
(旧 静岡県授産製品コンクール) は、静岡県
より委託を受け当法人が運営して開催致しま
した。

⑭ (令和元年 10月 23日・中日新聞)



県内障害福祉サービス事業所が自慢の商
品を出品した農福連携マルシェ＝静岡市
葵区

障害福祉事業所が
農作物など出品
静岡でマルシェ
県内の障害福祉サ
ービス事業所による「農
福連携マルシェ201
9」(県、オールしず
おかベストコミュニテ
イ主催)がこのほど、
静岡市葵区の葵スクエ
アで開かれた。事業所
の農業参入を後押しす
る県の農福連携事業の
一環。
県内8事業所が会場
にブースを構え、生産
した農作物や加工品を
紹介し、来街者と交流
を深めた。授産品の高
付加価値化を進める県
の「しずおか授産品プ
ランド」認定された商
品も出品された。

⑮ (令和元年 10月 24日・静岡新聞)

福産品受賞団体を表彰 静岡でイベント



障害者週間(3/9日)に合わせた県障害者芸術祭(県主催)の県民PRイベントがこのほど、静岡市葵区のJR静岡駅北口地下広場で開かれた。ふじのくに福産品ソーシャル・グッズ・コンテストの受賞団体を表彰したほか、障害者アーティストがパフォーマンスを演じた。

表彰を受け、記念撮影する県知事賞の受賞者(静岡市葵区のJR静岡駅北口地下広場)

県は10月、公募によつて県内の障害福祉サービス事業所が製作した「授産品」の愛称を「ふじのくに福産品」と決めたばかり。コンテストは食品や縫製品、雑貨などの優れた

福産品を作った19の事業所や特別支援学校を表彰した。県知事賞を受賞したアルシオン(三島市)のうなぎやさいそめ

表彰式の前後には、身体や知的などの障害者などが会場で紹介され、駅を利用する通行人の関心を引いていた。

表彰式の前後には、身体や知的などの障害者が剣舞を演じたり、アコーディオン、ギター、オカリナの演奏を披露したりして会場を沸かせた。

⑰ (令和元年12月12日・静岡新聞)

※記事にある「ふじのくに福産品ソーシャル・グッズ・コンテスト」及び「静岡県障害者芸術祭」は、静岡県より委託を受け当法人が運営して開催致しました。

障害者施設の防災考える 葵区 被災経験者招き研修

障害者福祉事業所の職員を対象とした防災



災害対策を考えた防災研修(静岡市葵区の障害者働く幸せ創出センター)

研修会(NPO法人オールしずおかベストコミュニティ主催)が6日、静岡市葵区の障害者働く幸せ創出センターで開催された。東日

本大震災で被災した福祉関係者らが避難の様子や震災の風化防止活動について講演し、参加者が災害時に要配慮者を支えていく心構えなどを学んだ。

宮城県塩釜市の福祉施設「さくら学園」の山崎雅博施設長は、津波の映像や施設が損壊した写真を見せながら当時の被害状況を説明した。歩道橋の上で施設利用者と12時間過ごした経験を振り返りながら「普段から利用者」と職員の間で信頼関係を構築することが大切」と話した。

⑱ (令和元年12月7日・静岡新聞)

「ヘルプマーク」理解訴え

県は13日、外見から障害の有無が分かりにくい内部障害者への支援や配慮を促す「ヘルプマーク」の普及や理解の促進を図る推進フォーラムを沼津市大手町のプラサヴェルデで開いた。

沼津で当事者ら フォーラム



ヘルプマークの必要性などを語ったパネリスト
 13日午後、沼津市大手町のプラサヴェルデ

有用性紹介、要望も

心臓疾患を抱える当事者や障害者支援団体のメンバーら4人がパネリストとなり、ヘルプマークの効果や必要性について意見を交わした。

4人は「知らない場所でも誰かが助けてくれると思える」「体調が悪い時に、電車で席を譲ってもらえた」などマークを身に付けるメリットを紹介した。「発達障害児は移動に時間がかかる。駐車場で、障害者優先のマークにヘルプマークも併記してほしい」などの要望も出た。

先天性心疾患の伊藤綾さん(33)は静岡市葵区は「バスや電車でポスターを見掛けるなど広まりを感じている。支援を受けるだけでなく、自分にもできる」とは積極的にしていきたい」と話した。

(東部総局・池谷遥子)

⑱ (令和元年 12月 14日・静岡新聞)

※記事にある「ヘルプマーク」推進フォーラムは、静岡県より委託を受け当法人が運営して開催致しました。

※記事にある「とも静岡店」は、静岡県より委託を受け当法人が運営致しております。

ツリーや装飾品でクリスマス演出
 きよつまで葵区
 静岡市葵区の県総合社会福祉会館内にある障害者福祉施設の製品販売所「とも静岡店」で14日まで、クリスマス



スフエアが開かれている。温かみのあるニット製品の特設コーナーを設け、リースなどの関連商品を目立つ場所に置いた。ツリーや装飾品を店内に設置したほか、店員もサンタクロースの衣装を着用するなどクリスマスムードを演出している。

500円以上購入した来店客には「ジャンケン参加券」を贈る。店員と対決し、結果によって菓子やバッジなどの記念品をプレゼントする。

ニット製品などをPRするクリスマスフェア「静岡市葵区の「とも静岡店」

⑲ (令和元年 12月 14日・静岡新聞)

令和元年(2019年)12月15日(日曜日) (日曜・祝日の翌日休刊) 日刊

日刊静岡

発行所 静岡富士と生きる
〒412-0045
本社 御殿場市川島田1440番地
TEL (0550)89-8930番
FAX (0550)89-8932番
購読料 1ヶ月 1080円 1部 50円

県の福祉製品コンテストで入賞 ステップ・ワンのミニホワイトセロリ

御殿場



【御殿場】社会福祉法人ステップ・ワン(根上豊子理事長)が水耕栽培施設・ゆめ農(御殿場市竈)で生産しているミニホワイトセロリはこのほど、「ふじのくにソーシャル・グッツ・コンテスト」で県共同募金会会長賞を受賞した。このコンテストはNPO法人オー

【写真】県共同募金会会長賞の賞状を持つ根上理事長(左)とトロワイパーを手にする利用者代表ステップ・ワンで

などを目的としている。食品、縫製品、雑貨の三部門が設けられ、各部門ごとに県知事賞や県社会福祉協議会会長賞などが選ばれる。今回、食品部門の県共同募金会会長賞を受賞したミニホワイトセロリは、今年度から栽培に取り組んでいる。通常のセロリと比べてクセが少なく、同じく「ゆめ農」で栽培しているリーフレタスとの相性も良い。小売店への出荷に先立ち、イベントで試験販売したところ購入者から「どこで売っているのか教えてほしい」との問い合わせが相次ぎ、ステップ・ワンでも手応えをつかんだという。根上理事長は、「ゆめ農での水耕栽培を始めて今年

で六年目。将来性を考えないとけなさを考えると、レタス以外のものも手の栽培に着手した。

②(令和元年12月15日・日刊新聞)

障害福祉6事業所 清水町で製品販売
認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティは15日、清水町のサントムーン柿田川で障害福祉事業所の製品販売会を行った。障害がある人々の工賃アップのほか、福祉事業所に対する社会的な理解を深めてもらうと実施した。三島、沼津、富士の3市の6事業所がブースを構成、クッキーや缶ジュース、ポストカードなどそれぞれの製品を販売した。



障害者が作った製品を品定めする買い物客
=清水町のサントムーン柿田川

買い物客が足を止めて品定めする姿も。クリスマスや正月飾りといった年末ならではの製品も並び、各事業所の職員らと話を弾ませながら、次々と買い求めていた。

②(令和元年12月16日・静岡新聞 東部版)



豊岡市長（右から3人目）に受賞を報告する関係者
＝三島市役所

福産品グッズコンテスト

三島の2施設、知事賞

市長に報告

障がい福祉施設のアルシオン（三島市）とさわじ作業所（同）の製品が「ふじのくに福産品ソーシャル・グッズ・コンテスト」（オールしずおかベストコミュニティ主催）で最高の県知事賞に輝き、関係者がこのほど、市役所に豊岡武士市長を

訪ねて喜びを報告した。食品部門で受賞したアルシオンは、うなぎの残さを肥料に無農薬栽培で育てたバレイシヨヤトマトなどを練り込んだ「うなぎやさいそうめん」を出品した。さわじ作業所の製品は、木材のサイコロや

積み木など4点。角を丸く磨くなどして仕上げ、雑貨品部門で高い評価を受けた。アルシオンの鈴木俊昭理事長は、「災害時でも子どもから高齢者まで安心して食べられるそうめんを作った」と思いを語った。同作業所を運営する市社会福祉協議会の中村正蔵会長は「利用者とスタッフが努力した成果」と受賞を喜んだ。

いずれの製品も各施設で販売する。

（三島支局・金野真仁）

②（令和元年12月18日・静岡新聞 東部版）

社説

<2019.12.30>

ヘルプマーク普及

共生社会実現のために

義足や人工関節を使用している人、内部障害や難病、妊娠初期の人など外見から分からなくても援助や配慮が必要なことを周囲に知らせる「ヘルプマーク」。東京都が2012年に始めた取り組みは全国に広がり、静岡県は導入からまもなく2年が経過する。マークを知る人は徐々に増えているが、普及しているとは言いがたい。すべての人に優しく暮らすための「共生社会」実現につながるため、広がり加速させたい。

ヘルプマークは赤地に白い十字とハートマークを組み合わせた。日本工業規格(JIS)の案内用図記号に追加された全国共通のマークで、衣服やかばんなどに付けて周囲に伝える。

県は4万個を全市町担当課や保健所などで無料配布している。県によると、

これまでに約3万2千個を配布したが、必要となる人は最大で12万人が見込まれるという。県のアンケートでは「見たことがあり意味を知っている」との回答が17年度の12・9%から19年度は42・2%と認知度は上がった。一方で、「知らない」という人も4割を超えている。マークを効果的に活用するには理解者を増やす必要がある。

障害者の自立促進などに取り組むNPO法人オールしずおかベストコミュニティは、マークの意義を伝える漫画を作製し、分かりやすいと評価が得られた。今後は中学生ら若い世代に理解を広げる手段として、同様の冊子作製を検討する。愛知県では啓発に協力する約200の企業・団体を普及パートナーに登録し、県と活動を展開する。

静岡県内の関係者が周知に向けて注目するのが、愛知県国際展示場の駐車

場看板。障害者用として見慣れたシンボルマークに加え、ヘルプマークを並べている。障害者団体からの要望に対応したという。多くの人の目に入るため、普及手段の一つになりそうだ。

東京五輪・パラリンピックでは国内外から多くの観戦客も訪れる。県は英語での説明を併記したポスターなどを電車やバスの事業者らに配布し、理解を求める機会の創出を図っていく。困っている人に積極的に声を掛け、心遣いができる、おもてなしの心を養う機会になる。こうした取り組みは国連の持続可能な開発目標(SDGs)の理念の実現にもつながる。

突然自分が難病になったときに安心して暮らせる社会だろうか。何が必要か考えてほしい。マークの存在を知り、行動をとることで初めて効果が生まれる。行政の普及啓発の取り組みに加え、マークを付けている人を増やし、理解した人が行動することが、共生社会に近づく一歩となる。

② (令和元年12月30日・静岡新聞)

**障害者の就労支援
考えるイベント**
来月8日、葵区
障害者の就労支援団
体の認定NPO法人オ
ールしずおかベストコ
ミュニティ（静岡市葵
区）は2月8日、障害
者の就労について考え
るイベント「カフェ就
労を同区眞服町の「障
害者働く幸せ創出セン
ター」で開く。
障害者とその家族ら

が対象で、参加無料。
静岡障害者年金相談支
援センターの杉山行彦
さんらを講師に迎え、
障害者年金や食事に関
するセミナーを実施す
る。四重奏のミニコン
サートなども予定して
いる。
午後1時から4時ま
で。申し込み、問い合
わせは同コミュニティ
△電054（251）
3553<。>

⑳ (令和2年1月21日・静岡新聞)

R活動を行う。

富士 障害者の作品集め展示会

富士市内の四つの障害者支援施設の利用者が作った作品を集めた展示会が27日まで、同市中野の富士信用金庫大淵中野支店で開かれている



＝写真＝。
同市のス
マイルベリ
ーファーム
や夢の杜な
ど障害者の
就労支援に
取り組む事
業所の利用
者が出品し
た。イヌの
イラストを
刺しゅうし
たふきんや
陶器の器、
センニチコ
ウやススキ
などを乾燥
させて束ね
たドライフ
ラワールの
飾りなどが
並ぶ。

27日には事業所の利用者や職員が各施設のP

⑳ (令和2年1月22日・静岡新聞)

※富士信用金庫様は当法人の会員で、地域の障害者支援施設による「展示会」は、「企業CSR連携促進事業」の一環で当法人が企画して主催したものです。

沼津 福産品展、ラスクなど並ぶ

県東部にある福祉事業所4施設が障害者の手作り製品を販売する「ふじのくに福産品フェア」が23日まで、沼津市大手町のとも沼津店前ギャラリーぶらざで開かれている。



シフォン
ケーキや戸
田塩を使っ
たラスク、
着物柄のク
ッション、
木工品のペ
ーパースタ
ンドなど家
族や友人へ
の贈り物に
使える製品
をそろえた
＝写真＝。

⑳ (令和2年1月23日・静岡新聞)

※記事にある「ふじのくに福産品フェア」（とも沼津店）は、当法人が主催いたしております。



福社の分野と地域の連携の連携の大事さを説く北川さん
＝静岡市駿河区のグランシップ

障害者の就労支援語る 駿河区 社会福祉法人理事が講演

障害者の就労支援を
行つた認定NPOオール
しずおかベストコミュニ
ティは24日、静岡市
駿河区のグランシップ
で社会福祉法人の代表

福社会（岐阜市）の北川雄史専務理事を招き講演会を開いた。障がいがある人の仕事づくりと地域との連携がテーマで、110人が集まった。

北川さんは「障がいを抱える人が地域の中で役割を果たすことができる社会を理想と考へてきた」と語る。

地域で染め物や菓子、茶などの物づくりに取り組む人々とのネットワーク形成を進め、障害者の社会参加を促しつつ、事業化した実例を紹介。「いろいろなことが福祉の仕事としてできる。福祉の場は地域であり、どうつながっていくかが大事」と強調した。

⑲（令和2年1月26日・静岡新聞）

体の不自由な人らがつくった「ふじのくに福産品」をバレンタイン（十四日）の贈り物として紹介する展示販売会が県庁西館の四階で開かれている。七日まで。

チョコやケーキ 県庁で展示販売

事業所の製品は一般に「授産品」と呼ばれる。授乳、出産など、漢字のイメージで赤ちゃん用と誤解されるケースがある。県は昨年九月、独自に愛称を募り、「ふじのくに福産品」に決めた。（三宅千智）

お菓子や雑貨など「ふじのくに福産品」が並び会場＝県庁西館4階で



⑳（令和2年2月7日・中日新聞）

※記事にある「ふじのくに福産品 展示販売会」は、当法人が静岡県より委託を受けて運営している「とも静岡店」が出店致しております。

障害者「福産品」チョコ販売

県庁でフェア バレンタインへ 強化



県は6、7の両日、障害者が製作したチョコレートなどの菓子や雑貨を販売する「バレンタインフェア」を県庁で開いた。障害福祉サービス事業所の製品「ふじのくに福産品」の販売を強化し、障害者の自立を促すため初めて開催した。

県内の社会福祉法人や障害者支援団体など30団体が出品。高級感のある障害者の手づくりチョコレートとして

障害者の作ったチョコレートなどが販売された「バレンタインフェア」
17日午後、県庁

全国的に知られる「久遠チョコレート」をはじめ、ほほえみ工房きさら(静岡市)の焼きドーナツ、くるみ共同作業所(浜松市)のチョコボンせんべいなど多彩な商品が並んだ。試食も行われ、昼休み中の県職員らが買い求めていた。

⑲ (令和2年2月8日・静岡新聞)

※記事にある「ふじのくに福産品バレンタインフェア」は、当法人が静岡県より委託を受けて運営している「とも静岡店」が出店致しております。

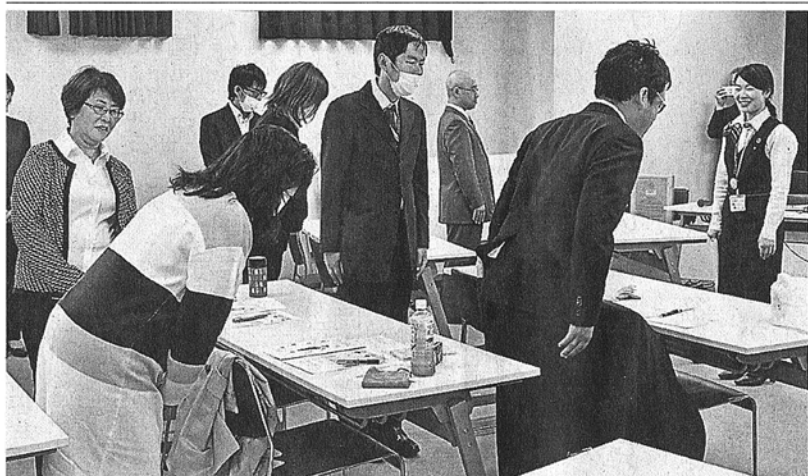
障害者施設職員と利用者

ビジネスマナー学ぶ

葵区で研修

NPO法人オールしずおかベストコミュニティは13日、障害者施設や障害者団体などの二名に合わせたビジネスマナー研修を静岡市葵区で行った。県中部を中心に13人が参加した。

企業の社会貢献(CSR)活動と福祉施設や障害者団体などの二名をマッチングする県の「企業CSR連携促進事業」の一環。静岡信用金庫人事部の佐野葉子さん(29)が講師



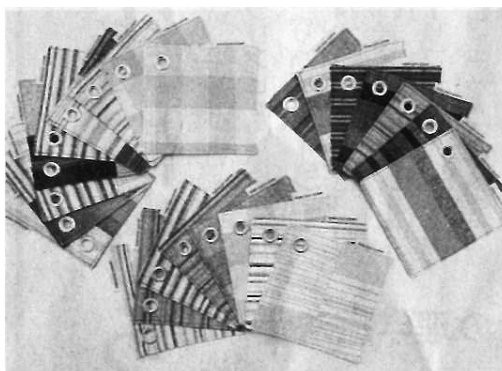
お辞儀の仕方を学ぶ参加者ら＝静岡市葵区

を務め、第一印象の重要なポイント。参加者は講師の笑顔や会話を手本に、お辞儀や相手を大演を笑顔に練習した。

⑳ (令和2年2月15日・静岡新聞)

春の全国運動でドライバーらに 交通安全願い

コースター製作



南区の「くるみ」利用者

春の全国交通安全運動（四月六～十五日）に向け、浜松市南区の障害者通所施設「ワークシヨップくるみ」の利用者が、交通安全の標語を入れたコースター＝写真＝の製作に励んでいる。通常の作業の合間を縫って作りため、目標は二百枚。運動初日に東名高速道・浜松インターチェンジ（IC）でドライバーらに配る。

（伊藤一樹）

障害者と地域・企業の橋渡しをする静岡市のNPO法人が、中日本高速道路から交通安全啓発品の依頼を受けて施設に発注した。一

コースターは一辺が約十



交通安全を願い手作業でコースターを仕上げる利用者＝浜松市南区で

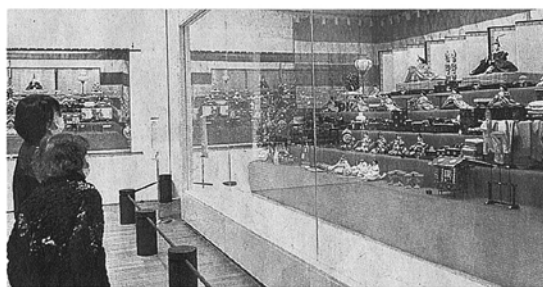
寸の正方形で、素材は触り心地の良い遠州綿紬。縫製作業で余った布を使い、裁断から縫製、仕上げまで丁寧に手作業する。最初は一枚作るのに十分ほどかかったが「こつをつかめば五分程度で大丈夫」（同施設職

員）とスピードアップし、目標の三分の二の約百四十枚を作り終えた。二十六日に中日本高速道路東京支社浜松保全・サービスセンター（浜北区）に納入する。一枚一枚を袋に入れ「なくそう逆走事前に進行方向の確認を」のメッセージも添える。施設利用者は「交通安全を願って作っています」と話した。

③1（令和2年2月21日・中日新聞 西部版）

※記事にある「障害者と地域・企業の橋渡しをする静岡市のNPO法人」とは、当法人「NPO法人オールしずおかベストコミュニティ」を指しております。

宮家ゆかりの京びな展 来月8日までグランシップ



華やかな京びなが並ぶ会場＝静岡市駿河区のグランシップ

徳川慶喜の孫にあたる故高松宮妃喜久子さまがご成婚時に持参した京びなを公開する「高松宮妃のおひなさま展」（県文化財団、県主催）が3月8日まで、静岡市駿河区のグランシップで開かれている。

幅約6尺、高さ約3・6尺の五段飾りには、おひなさまやお内裏さまなど19体の人形が並び、化粧道具やタンスといった調度品約600点が華やかに並ぶ。調度品は葵の御紋があしらわれ、実際に使用できると思わせるほど精巧に作られている。会場外では、県内13の福祉事業所の利用者や職員が製作した、ひな飾りグッズなどの販売ブースも設け、来場者を楽しませている。京びなは1999年に県が高松宮家から譲り受けて以来、公開を続け今年で21回。

③②（令和2年2月24日・静岡新聞）

※記事にある「販売ブース」は、静岡県文化財団様より委託を受け当法人が運営して開催致しました。



中区 事業所利用者が交通安全啓発品

浜松市内の障害者福祉事業所の利用者が11日、春の全国交通安全運動（4月6～15日）に向けた啓発品を県交通安全協会浜松中央地区支部に贈った。

いずれも中区の遠州みみの里、ワークワーク、第二くるみ作業所の利用者と職員7人が浜松中央署を訪れ、各施設の利用者が紙の裁断や袋詰めなどを手掛けたメモ帳、ボールペン、ノートを中村嘉宏支部長に手渡した＝写真＝。中村支部長は「交通安全を啓発でき、障害者に光を当てることもできる。ただ買ってくるよりも、手作りの方が意義がある」と感謝した。

啓発品は各300セットあり、今後追分小、県居小、葵西小の新入学児童に配布する予定。

③③（令和2年3月12日・静岡新聞 西部版）

※記事にある「啓発品」は、地域社会との連携・貢献の取り組みに積極的な静岡県交通安全協会 浜松中央地区支部様に、新入学（園）児を交通事故から守る県民運動期間中、当法人がコーディネートして、障害のある人たちが作った製品を啓発品として採用いただいたものです。交通安全のメッセージと共に新入学児童に配布されました。

浜松市内三方所の福祉事業所で障害のある人たちが手掛けた文具が、春の交通

みみの里 ワークワーク 第二くるみ

交通安全の啓発品託す

メモ帳やボールペン、ノート

安全運動の啓発品に採用された。交通安全の呼びかけとともに、障害者福祉の取り組みを知ってもらう狙い。四月の運動期間中、反

射材などのグッズと一緒に、追分、県居、葵西の各小学校（いずれも中区）の児童に配布される。遠州みみの里（中区）は表紙に「めも」を表す指文字のイラストがあるメモ帳、ワークブック（同）は「交通安全」と名入れたボールペン、第二くるみ作業所（同）は牛乳パックを再利用した表紙のノートをほぼ手作りで作製した。

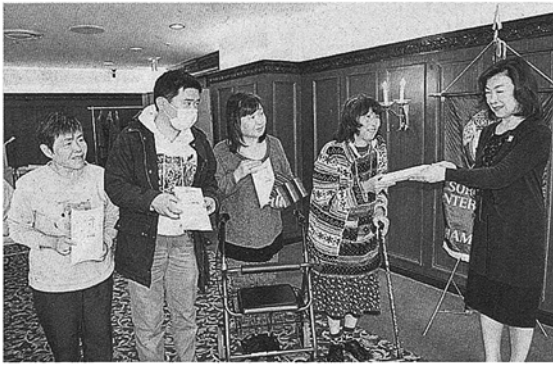


中村嘉宏支部長（左）に啓発品を手渡す事業所の職員と利用者＝浜松中央署で

十一日に浜松中央署で引き渡し式があり、三事業所から訪れた職員と利用者計九人が、合わせて三百個の啓発品を県交通安全協会浜松中央地区支部に託した。受け取った中村嘉宏支部長は「手作り品で、障害のある人の社会貢献に関心を持ってもらえれば」と期待した。（大城愛）

③④（令和2年3月13日・中日新聞 西部版）

※記事にある「啓発品」は、地域社会との連携・貢献の取り組みに積極的な静岡県交通安全協会 浜松中央地区支部様に、新入学（園）児を交通事故から守る県民運動期間中、当法人がコーディネートして、障害のある人たちが作った製品を啓発品として採用いただいたものです。交通安全のメッセージと共に新入学児童に配布されました。



中区 制作のマルチケース寄贈

浜松市北区の障害者就労支援施設「夢ワークたちばな」は23日、利用者らが遠州綿紬（めんつむぎ）の生地を使ってこしらえたマルチケース320個を「国際ソロプチミスト浜松」に贈った。

障害者の支援活動を進める認定NPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」（静岡市葵区）が同団体に提案し、記念品として採用された。マルチケースは同団体の認証40周年を記念した製品と位置付けられ、今後全国の会員らに配布されるという。

同市中区のホテルコンコルド浜松で開いた引

③⑤（令和2年3月24日・静岡新聞 西部版）

き渡し式では、施設利用者が国際ソロプチミスト浜松の秋優子会長に記念品として手渡した＝写真＝。秋会長は「とても素晴らしい製品。多くの人に手に取ってもらい、施設のPRにつながれば」と話した。

遠州綿紬ケース 記念品に

ソロプチミスト浜松40周年 三ヶ日の事業所製作

障害者福祉の取り組みと浜松の名産品を広く知ってもらおうと、女性の地位向上を目指す「国際ソロプチミスト浜松」が団体の認証40周年の記念品として、NPO法人すだちの福祉事業所「夢ワークたちばな」



（浜松市北区三ヶ日町）で手掛けた遠州綿紬のマルチケースを採用した。

ケースは、北区の工房から仕入れた遠州綿紬の生地を事業所のパート従業員らが加工し、利用者たちが包装などの仕上げをした。カードや小さめの手帳を収納できる便利グッズで、計十六種類の柄、合わせて三百二十個を手掛けた。

中区のホテルコンコルド浜松で二十三日に引き渡し式があり、写真、事業所の利用者四人から品物を受け取った秋優子会長は「記念品と一緒に事業所や工房の説明書も包んだ。節目の機会に浜松の良さをPRできれば」と話した。記念品は四月以降、全国の会員に郵送で配られる。（大城愛）

※地域社会と世界中で女性と女児の生活向上を目指す活動をしている国際ソロプチミスト浜松様は、令和2年4月に認証40周年を迎えました。記事にある「記念品」は、地域貢献活動の一環として、記念式典で配布する記念品に、地元浜松の障害のある人たちが作った福産品を当法人が提案し、贈呈されたものです。

③⑥（令和2年3月24日・中日新聞 西部版）

■静岡県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」

浜松、沼津にも拠点開設

県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」（静岡市葵区）はこのほど、西部地区と東部地区の支援拠点を浜松市中央区と沼津市にそれぞれ開設し、5月から業務を始めた。

昨年9月に開設された同センターは、障

障害者芸術家を育成

害者が気軽に文化芸術活動に触れられる環境を整え、障害者芸術家の発掘・育成を目指している。これまでは拠点が静岡市だけだったため活動範囲が限られていたが、支援拠点を設けて全県を対象に支援する態勢を整えた。

新拠点では支援コーディネーターを公募で採用。西部地区は元特別支援学校教諭の竹内明美さん、東部地区は美術出版会社で図工教材の営業をしていた星野栄美さんが就いた。障害者が通所する事業所や特別支援学校などに足を運び、人材や作品を見つけ出す。障害者が作品をつくる機会を提供したり、集めた作品の展示会なども企画したりする。毎週月曜の午前10時から午後4時までは各拠点で相談に応じる。

竹内さんは「地域で自然に活動が続くようにしたい」、星野さんは「より地域に密着した活動を心掛けたい」と抱負を語った。

今月から県支援センター

③7（令和元年5月10日・静岡新聞）

(3)

総合

令和元年(2019年)5月23日(木曜日)

社説

<2019.5.23>

障害者の芸術活動

官民で自立環境整備を

静岡県は今月、県障害者文化芸術活動支援センター「みらいと」（静岡市）の活動拠点を、新たに浜松市と沼津市に開設した。文化芸術活動による障害者の社会参加と経済的自立を推進するために、官民連携で環境整備に努めてほしい。

障害者の芸術は国内外で注目を集め、鑑賞者の心を揺さぶるとともに芸術界に刺激を与えている。優れた作品やパフォーマンスが正当な評価を受け、経済的価値を生むのは当然だ。絵画や彫刻などの制作だけでなく音楽や舞踊なども含む芸術活動への参加は本人や家族の自信につながると同時に障害者への理解を促進し、共生社会の実現を後押しする。

昨年6月に議員立法で成立した「障害者文化芸術活動推進法」は、国と自

治体に発表機会の確保や質の高い作品の発掘、著作権保護の推進、作品販売の支援などを求めた。今年3月には同法に基づく基本計画を国が策定し、具体的な施策の推進が求められる段階に入った。対価の授受も見据えれば芸術や福祉、教育、産業界など多分野の連携や専門知識が不可欠で、関係者のネットワーク化には特に力を注ぐべきだ。

「みらいと」は昨年9月に開設された障害者の芸術活動への参加環境づくりのための総合的な支援窓口で、専門家による相談や施設職員への研修など多角的にサポートしている。今回、東西にも拠点を設け支援コーディネーターを配置したことで、地域密着のきめ細かい対応を期待したい。

障害者の芸術活動の課題の一つに、学校を卒業して社会に出ると技を磨いたり、発表したりする場が限られてし

まうことがある。通所している事業所などの間で、芸術活動への理解や支援姿勢に温度差もあるという。全県を対象にした支援態勢が整ったことを、全体の底上げにもつなげてほしい。

才能の発掘や作品の商品化のため、コンテストは有効な手段と言える。障害者の芸術活動支援を自指して昨年8月に設立された静岡市の任意団体「オールブルッククラブ」は賞金付きのアートコンテストを開いた。入賞者は一般社団法人「障がい者自立推進機構」に登録され、作品が法人や個人に採用されれば収益の50%が作家の報酬となる。同コンテストに公的支援はなく、継続には民間の協力が欠かせない。本来、芸術に障害の有無は関係なく、障害者の芸術活動の振興に当たっては、「特別な分野」として切り離さない配慮が必要だ。創作やマネジメントの上で障壁となっている部分を補い、同じ土俵に立つための支援を心掛けたい。

③ (令和元年5月23日・静岡新聞)

障害ある作家の考え伝わる 葵区 貼り絵や絵画の作品展

知的障害などがある作家の絵や貼り絵を展示する「みらーと5月展」が三十

一日まで、静岡市葵区呉服町の「5風来館」四階特設ギャラリーで開かれてい



色鮮やかに風景を描いた作品などが並ぶ会場＝静岡市葵区呉服町で

「みらーと事務局支援コー

る。障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」主催。障害のある作家九人や、障害者支援事業所のメンバーが、思い思いに表現した計二十三点を展示する。紺綬褒章を受章したダウン症の書家、金沢翔子さんが昨年十月に県障害者芸術祭で揮毫した書「共に生きる」も展示している。九人は二十〜五十代。花びらや葉脈、二百六十六匹の熱帯魚の模様を細かく表現した和紙の貼り絵は色鮮やか。安倍川と富士山の景色やレインボーブリッジをペンで力強く描いた風景画、頭に浮かんだ食べ物を墨汁で紙に浮かべた食べ物を独特の作品も並ぶ。

ディネーターの藤田博史さん(五七)は、「作品を通して作者の考えていることが分かる。一つ一つじっくり見てほしい」と話した。展示は午前十時〜午後五時。入場無料。(福島未来)

④ (令和元年 5月 30日
・中日新聞)

障害者の芸術作品紹介 静岡、31日まで

ダウン症の書家金沢翔子さんから障害者の芸術作品を集めた展示会が31日まで、静岡市葵



障害者によるユニークな作品が並んだ展示会＝28日午前、静岡市葵区の「みらーと」

区の障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」で開かれている。

金沢さんが昨年10月の県障害者芸術祭で揮毫(きごう)した「共に生きる」の書をびょうぶに仕立てて展示している。同センターが県内各地で発掘した障害者の作品23点も並ぶ。鉛筆で幾何学的に並べた数式を書いたり、ボールペンで細かな模様を描いたりした独特な絵画や、色鮮やかな立体作品が来場者の目を楽しませている。

同センターは「多くの人に作品を見てもらえると制作意欲も高まる」と来場を呼び掛けている。

③ (令和元年 5月 29日・静岡新聞)



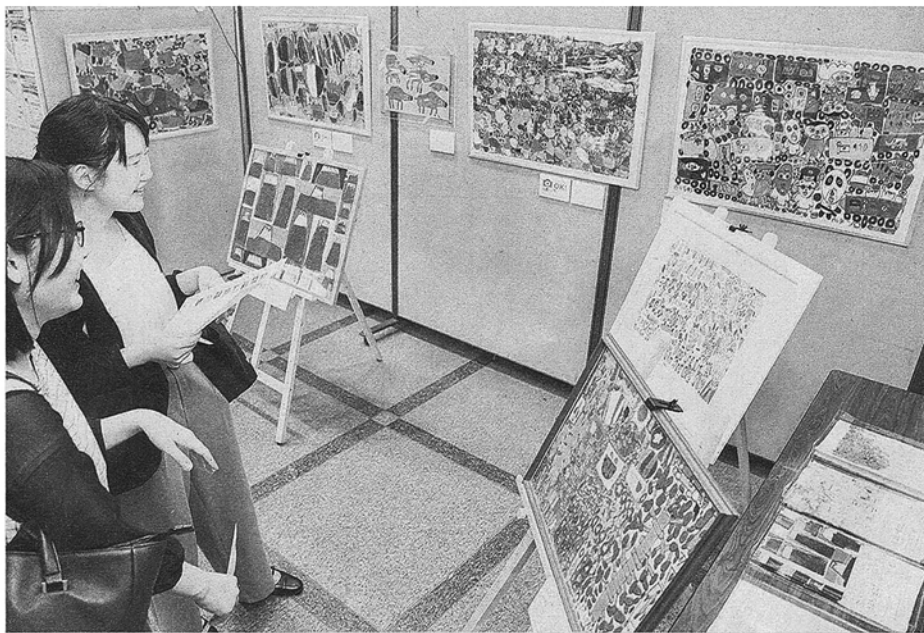
⑤10階にある西部拠点の事務所の相談窓口で職員と話す竹内明美さん
⑥個性豊かな作品が並ぶ1階ロビー
＝いずれも浜松市中区の県浜松総合庁舎で

県障害者文化芸術活動支援センター「みらいと」の西部拠点が開所してから初の作品展が二十五日、浜松市中区中央一の県浜松総合庁舎一階ロビーで始まった。障害のある四人が油性ペンや色鉛筆で描いた八点を展示する。五月のオープン以降、当事者らから発表したいと相談が相次いでおり、担当者は「絵だけでな

く音楽など、障害者の芸術文化を発信する拠点にしていきたい」と話す。カラフルな作品たちは、画用紙やコピー用紙に描かれる。縦長や横長の大小二十五の四角い富士山を敷き詰めた絵のほか、七夕飾りや気球、トウモロコシも題材に。優しいげな目のインシシ六頭を描いた絵もあり、来場者が「かわいい」「な

障害者アート 彩り豊か

浜松の支援拠点初の作品展



んだろうこれ」と見入った。作者は二十〜四十代の自閉症の人ら。西部の支援コーナーディレクター竹内明美さ

んが七十力以上の市内の就労支援の事業所や特別支援学校などを回って探した。みらいとは昨年九月、静

岡市を本部に発足した。障害者の芸術活動を支援し、作品の展示をするほか、相談を受け付ける。今年五月には浜松市に西部拠点、沼津市に東部拠点が置かれた。西部では「発表の場が欲しい」などの電話相談が、一カ月余りで二十三件寄せられてきた。

「まだ発掘されていない障害者の文化芸術は多いと感じる」と竹内さん。本部事務局の松本克弥部長は「彼らの豊かな感性を育てていきたい」と話した。作品展は二十七日まで。

二十六〜二十八日には東部の作品展がJR沼津駅南の沼津商連会館一階で開かれる。相談は、本部が平日午前十時〜午後五時、西部と東部は月曜午前十時〜午後四時。◎本部〓054(251)3520、西部〓053(458)7600、東部〓055(963)9100 (鈴木凜平)

浜松 障害者の絵画展、個性豊かに

障害のある人たちが描いた絵画を紹介する作品展「みらーと西部拠点 6月展」が25日、浜松市中区の県浜松総合庁舎の1階ロビーで始



まった＝写真＝。27日まで。

今年5月に同庁舎の10階に開設した県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」西部拠点の企画第1弾で、浜松市在住の4人が計8点を展示した。何枚もの富士山をパズルのように組み合わせた抽象画やピンクの背景に何匹ものイノシシを描いたかわいらしい作品などが飾られている。

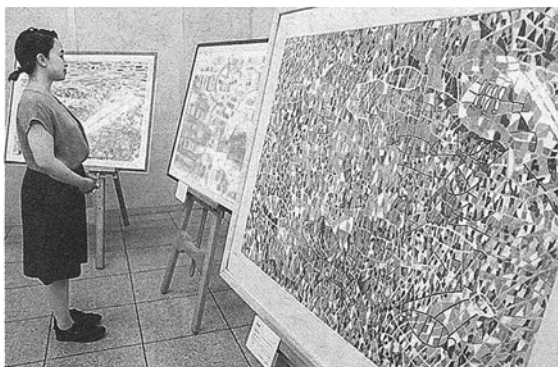
開催時間は午前9時から午後5時まで（最終日は午後3時まで）。

④（令和元年6月26日・静岡新聞）

「作品展を開きたい方など、気軽に連絡を」と呼び掛けている。問い合わせは同センター〈電話053(458)7600〉へ。

沼津 福祉事業所利用者の絵画並ぶ

県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」東部拠点（沼津市大手町）は26日、県東部地区の障害者の作品を集めた展覧会を同所の県東部県民センターで開いた。28日まで。

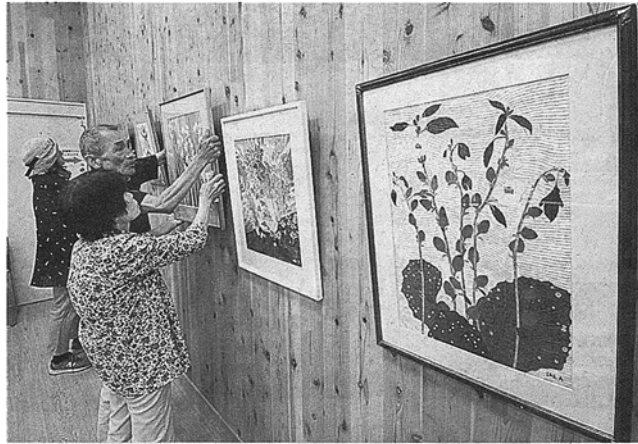


のびる作業所（三島市）、みはらしの里（同）、佐野あゆみの里（同）、富岳会（御殿場市）の4福祉事業所の利用者が絵画計19点を出品した。花や動物をモチーフに、クレヨンや絵の具、フェルトペンなどさまざまな画材を使い分け、色彩豊かな作品を描いた＝写真＝。

④（令和元年6月27日・静岡新聞）

展示会開催の基本学ぶ

中区障害者ら会場設営



講義の内容を踏まえ、作品を設置する参加者
＝浜松市中区の遠州信用金庫中島支店

県障害者文化芸術活動支援センター「みら」とは10日、障害者アーティストの人材育成セミナー

ナーを浜松市中区の遠州信用金庫中島支店で開いた。障害や病気をもちながら創作活動を行う当事者や関係者ら10人が展示会開催の基本について学び、持参した作品を紹介する「みら」と西部拠点9月展」の会場設営にも取り組んだ。

秋野不矩美術館（天竜区）の吉川利行館長

が美術展の計画の仕方や展示の際のポイントなどを説明した後、参加者が持ち寄った作品約20点を展示

した。位置や高さなどを相談しながら、書や貼り絵、デジタルアートなど多彩な作品を飾った。統合失調症と闘いながら創作活動を続ける成田侑未子さん（31）は掛川市は小動物を描いたイラスト画を出品した。

「見る人にほっとしてもらいたい。この作品展が病気や障害を知りきっかけになれば」と話した。

「みら」と西部拠点9月展」は20日まで、同支店多目的ホールで開催する。
（浜松総局・土屋咲花）

障害者らファッションショー 「みらーと」1周年でフェスタ

葵区

ボースを決めるモデルの男性。静岡市葵区のJR静岡駅北口地下広場



がデザイナーの中沢弘美さんの手掛けた衣装をまとってランウェイを歩いた。自らモデルを志願し、ウォーキングの練習などを行って臨んだとあって、しっかりとボースを決めて観客の拍手を浴びた。

ショーのほかにも、ダンスやピアノ演奏など多様な活動発表を行った。

県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」の開設1周年を記念した「パフォーミングアーツフェスタ Look@me!」(ルックアットミー)が15日、静岡市葵区のJR静岡駅北口地下広場で開かれた。障害者らがモデルを務めるファッションショーなどを

④ (令和元年9月17日・静岡新聞)

障害者ら個性 絵画力作

県庁で作品展 ラグビー選手や風景



障害者の描いた作品が並ぶ絵画展＝県庁別館で

県内特別支援学校や福祉事業所に在籍する十代～七十代の知的障害者ら二十八人が出展した。テーマは「静岡ゆかりの風物」。富田や天竜川の河口の貼り絵などが計三十六点並ぶ。開催中のラグビーワールドカップ(W杯)日本大会にちなみ、日本代表主将のリーチ・マイケル選手を描いた作品もある。

みらーと事務局支援コーディネーターの藤田博史さん(五十)は「静岡の風景を一望できる会場。県外や海外の方もW杯で訪れている機会に気軽に立ち寄って、作者の才能や個性を感じて」と話した。

みらーとは昨年九月に発足。障害者の芸術活動支援に加え、ワークショップの開催や相談も受け付けている。相談は、平日午前十時～午後五時まで。☎みらーと054(251)3520 (谷口武)

県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」が主催する絵画展「ウェルカム・アーツ21展」が三日、静岡市葵区の県庁別館第二階展望ロビーで始まった。十日まで。入場無料。

④ (令和元年10月4日・中日新聞)

ラグビーW杯盛り上げ

県庁「ウエルカム・アーツ21展」

リーチ主将描いた絵画も

県と県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」は10月まで、県内の障害者アーティストの作品を紹介する「ウエルカム・アーツ21展」を県庁



訪れた人を楽しませているラグビー日本代表選手を描いた作品＝県庁

別館21階の展望ロビーで開いている。ラグビーワールドカップ（W杯）日本大会を活躍する日本代表のリーチ・マイケル主将を描いた絵画11点も並び、来訪者を楽しませている。

W杯を盛り上げ、国内外から本県を訪れる人々をもてなそうと企画。リーチ主将はラグビーボールを右腕に抱えながら、赤と白の襟のシャギー姿で力強く走ったり、豊かな表情をみせたりする様子が描かれている。草土山や天竜川など「静岡

ゆかりの風物」をテーマにした作品も展示されている。

展望ロビーにはW杯の開催を機に、外国人観光客も多く訪れていて、展示作品への関心も誘っている。

心温まる障害者アート

31日まで掛川

6人の絵画34点展示

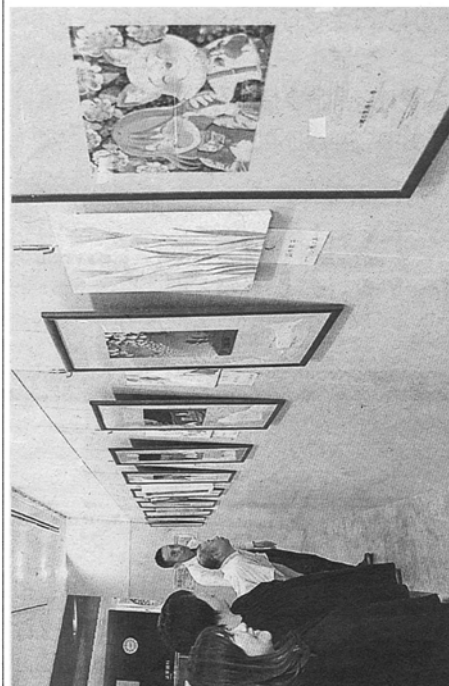
障害者アートの作品展「みらーと協力の6人展」が31日まで、掛川市の中東遠総合医療センター2階「絵画の小径（こみち）」で開かれている。知的、精神などの障害を抱えながら創作に取り組む県西部の6人が絵画34点を展示した。

出展者は掛川市の成田侑孝さん、袋井市の大石衛さん、鈴木教

子さん、近藤よしさん、浜松市の高林海香さんと丸藤華さん。子どもたちの笑顔や幻想的な抽象画など、心温まる作品が並ぶ。

6人は県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」西部拠点が開いたセミナーに参加するなどして知り合い、作品発表の方法を学びながら作品展を企画。みらーとや医療センターの市民ボランティアの協力を得て展示を実現させた。中にはプロを目指し出展者もいて、作品が多くの人の目に留まるようお願いを込めている。

みらーと西部拠点は浜松市中区の県浜松総合庁舎内にあり、毎週月曜に相談窓口を開くなど芸術支援に取り組んでいる。



6人の個性的な絵画が並ぶ作品展＝掛川市の中東遠総合医療センター

④7 (令和元年10月5日・静岡新聞)

④8 (令和元年10月8日・静岡新聞 西部版)

障害者の著作権保護へ

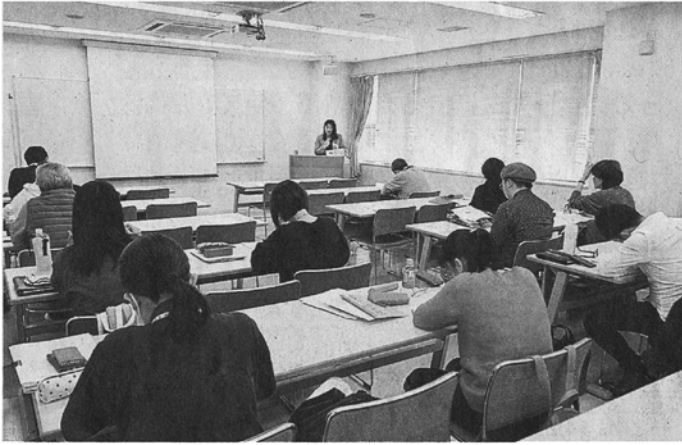
三島で福祉施設職員ら受講 セミナー

県障害者文化芸術活動支援センター「みらい」とは14日、障害者の著作権を守るセミナーを三島市の県総合健康センターで開いた。福祉施設の職員や障害者の保護者ら12人が受講した。

講師は法テラス沼津法律事務所常勤弁護士「著作者人格権」、作者の利益を得る機会を

士で社会福祉士の山本明日香氏。日常用語における「利用」は著作権法上の意味とずれがあることを説明し、「小さな誤解のもとになる」と指摘した。作品への思い入れなどを厚く保護する

た。グループワークも行い、参加者は福祉施設の利用者が描いた絵画をギャラリーで販売する際の注意点や手続きなどについて考えた。



障害者の著作権保護について学んだセミナー
＝三島市の県総合健康センター

④9 (令和2年1月16日・静岡新聞 東部版)

**障害者の著作権
守る重要性確認
葵区で研修**
障害者の就労支援を
行う認定NPO法人
「オールしずおかベ
ストコミュニティ」は28

日、障害者を対象にし
た著作権研修会を静岡
市葵区の県障害者働く
幸せ創出センターで開
いた。福祉関係者らが
グループワークや専門
家の講話などを通じ、
表現活動を行う障害者
の権利を正確な法理解
に基づき守ることの重



福祉関係者らがグループワークで著作権について学んだ
研修会＝静岡市葵区の県障害者働く幸せ創出センター

要性を確認した。
参加者たちはケース
スタディとして、障
害者が描いた絵画の販
売を申し出た画商への
対応方法などを検討。
「作者の意向を確認し

て契約を詰めていく
き」などの意見が出
れた。
講演した山本明日香
弁護士（法テラス沼津
法律事務所）は、トリ
プル防止のための作品

売買契約や著作権利用
許諾契約の重要さを説
明した。作品の持ち主
を守る「所有権」と作
者の「著作権」の違い
が誤解を生む原因にな
ることも解説した。

⑤ (令和2年1月29日・静岡新聞)

県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」

障害者の芸術活動支援

清水町で人材育成セミナー
展示会設営作業を実践



展示会の設営作業をする参加者
＝清水町地域交流センター

どの東部拠点(沼津市)は10日、障害者の芸術活動を支援していく人

材育成セミナーを清水町地域交流センターで開いた。参加者はセミナーで学んだ内容の実践として展示会を企画し、11日から一般公開し成果を披露した。県東部を中心に福祉事業所の職員ら18人が参加。「私にもできる展示会作り」と題してベルナル・ビュフェ美術館(長泉町)の学芸員3人が講師を務めた。展示には専門的な道具ではなく身近な台紙や用具が使えることや、作品に制作エピソードやおすすめポイントの紹介文を添える技術などを助言した。実際に同センターのホールで参加者が持ち寄った絵画や陶芸品など約60点を並べて設営を実践するワークショップを行った。参加者は作品間の空白の取り方などに気を付けながら飾り付けた。展示は「みらーと東部拠点2月展」として13日まで一般公開する。みらーとの担当者「自由な発想の題材と画風、そして工夫した展示の仕方を楽しんでほしい」と話した。

⑤ (令和2年2月12日・静岡新聞 東部版)

浜松 障害者が手掛けた絵画や書50点

知的障害や身体障害がある人が制作した芸術作品の展示会「障がい者アート展示会」が28日まで、浜松市中区の市福祉交流センターで開かれている＝写真＝。



県西部の障害者福祉施設利用者や個人が手掛けた絵画や書道作品50点が並ぶ。折り紙

を丸めて茶畑や富士山を表現した絵や、口で筆をくわえて書いた書など多彩な力作がそろそろ。書を出品した渡辺富士雄さん(39)＝浜松市中区＝は「作品を通して自分を知ってもらえれば、(障害者が)外に出るきっかけになる」と話す。

⑤ (令和2年2月28日・静岡新聞)

※記事にある「障がい者アート展示会」は、浜松福祉交流センターの担当の方から御相談があり、県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」西部拠点が関わり、展示会を運営いたしました。

子どもに芸術 命注ぐ

最期まで病床から指導

宮城まり子さん

掛川市のねむの木学園園長として、障害のある子どもたちの育成に生涯をさげた宮城まり子さん(93)が21日亡くなった。2年ほど前から悪性リンパ腫との闘病を続け、施設職員によると、亡くなる直前まで子どもたちへの芸術指導に力を振り絞っていたという。

宮城さんは女優として演じた経験から、障害者育から置き去りにされ、て脳性まひの子どものある子どもたちが教えていると知り、196



上皇ご夫妻とねむの木学園の園生がダンスを鑑賞する宮城まり子さん(右) 2018年11月、掛川市

8年に当時の浜岡町(現御前崎市)に学園を開いた。子どもたちの芸術の才能に注目して絵画や音楽の指導を重ね、その作品は世界的評価を受けてきた。子どもたちの頑張りを多くの人に見てもらい、認め合う大切さを感じ合える場所になれば」と運営への思いを語っていたが、2年ほど前にながんであることを公言。昨年10月に学園で開いた運動会では、招待客に「子どもたちが心配だけれど、みんなに守られてここに居ることをありがたく思います」と囁

りや、宮城さんは亡くなる数日前まで、体調を崩していた生徒の病状を職員に尋ねるなど子どもたちを気に掛けていたという。職員の高津健一さん(61)は「みんなのお母から見ていても毎日発

障害者アートの先駆者

障害者芸術の認知度を向上に力を尽くした宮城まり子さん。県内で障害者の文化芸術活動を推進する関係者が「先駆者の死を悼ん

上皇ご夫妻弔意

宮城まり子さんの訃報を受け、親交が深かった上皇ご夫妻が宮内庁上皇職を通じて、養護施設「ねむの木学園」に弔意を伝えられたことが23日、同庁関係者への取材で分かった。上皇ご夫妻は、皇太子夫妻時代から宮城さ

りと交流があり、学園を訪問したり、上皇后美智子さまは園生が描いた絵画などの作品展にも足を運んだりした。最近では2018年11月、ご夫妻が学園を訪れ、車いすに乗った宮城さんと再会し、園生の活動を一緒に見て

- ◇宮城まり子さんとねむの木学園の歩み◇
- 1927年 東京都に生まれる
 - 55年 「ガード下の靴みがき」で歌手デビュー。舞台やテレビなどで活躍
 - 58年 「12月のあいつ」で芸術祭賞受賞
 - 68年 旧浜岡町(現御前崎市)に日本最初の肢体不自由児養護施設「ねむの木学園」設立
 - 73年 吉川英治文化賞受賞
 - 79年 ねむの木養護学校(小学部、中学部)設立
 - 82年 ねむの木養護学校(高等部)開校
 - 84年 ねむの木子どもたちによる劇団「虹」結成。コンサート活動など始める
 - 89年 劇団「虹」とともに芸術祭賞受賞
 - 91年 米ニューヨークなどで「ねむの木学園美術展」「シンポジウム：障害児教育における美術教育」を開催
 - 97年 ねむの木学園を掛川市へ移転。身体障害者療護施設「ねむの木のどかな家」を設立
 - 99年 文化施設として「吉行淳之介文学館」「ねむの木子ども美術館」を開館
 - 2000年 静岡県東部市景観賞最優秀賞を受賞
 - 18年 上皇ご夫妻がねむの木学園をご訪問。宮城さんらと交流

「感銘を受けた」「残念」

宮城まり子さんの訃報を受け、ゆかりのある本県の障害福祉関係者からも悼む声が上がった。「共生社会を全力で実践した方で、非常に残念。もう一度会いたかった。そう惜しむのは県立大短期大学部の佐々木隆志教授(63)と誓った。県社会福祉協議会の

らで来た」と振り返った。障害者の作品をブランド化する取り組み「ハチエイチ」を手掛けるNPO法人エシカファーム(三島市)の風間康貴理事長(47)は「はるか昔からアートを通じて障害者の長所を認める活動をしてきた」と敬愛の念を込めた。「作品を、施設外との関わりの中で評価する仕組みを作った」とたてえた。

川勝平太知事の話最も尊敬し、憧れた女性だった。ねむの木学園で子どもたちのために半世紀以上、献身されてきた。学園の将来について掛川市と協力し、まり子さんに安心して暮らすように

■ 雑誌

Enterprise × Industry
eport 企業 | 産業レポート

清水エスバルス

『S-PULSE SDGs ACTION
地域と共に未来につなぐ』の取り組み開始

〔株清水エスバルス（静岡市清水区三保2695-1、左伴繁雄社長は10月16日、SDGs（持続可能な開発目標）の取り組みを積極的に進めていくことを発表した。〕

クラブ創設以来継続してきた社会貢献活動をさらに充実したものにすため、SDGsが定める17の目標の内、③すべての人に健康と福祉を④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等を実現しよう⑩住み

静岡県労働金庫

オールしずおかベストコミュニティに
17万8320円を寄付

静岡県労働金庫（静岡市葵区西門町1-20、古川正明理事長は10月15日、認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティ（静岡市葵区呉服町2-1-5、小出隆司理事長）に17万円超を寄付した。

同金庫では、『静岡ろうきんSDGs実践方針』を策定し、誰一人取り残さない持続可



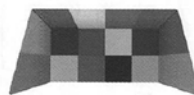
古川理事長（右）と鈴木専務理事

能な地域社会の実現に向けた活動を推進している。今回の寄付も地域社会への貢献活動の一環として行ったもので、無担保ローン「役

立宣言（オート、教育住宅、ライフローンの4商品）の契約件数に応じて算出した17万8320円を寄付した。古川理事長は「労働金庫とSDGsの理念は合致している。S

続けられるまちづくりを⑬気候変動に具体的な対策を⑯平和と公正をすべての人に⑰パートナーシップで目標を達成しよう⑱以上7つを優先目標に位置づけ、SDGsに取り組む。同社によると「優先的に取り組むSDGs目標を表明することはJリーグクラブ初のことになる」という。

・ロゴ 横タイプ



S-PULSE SDGs ACTION
地域と共に未来につなぐ

・ロゴ 縦タイプ



縦・横
2種類のロゴ

地域と共に未来につなぐ

ON 地域と共に未来につなぐ」としたこと、SDGsロゴに使われている17色のテーマカラーをあしらったロゴを選定したことも紹介した。

DGsの方針に基づく社会貢献活動に力を注ぐことで、明るい社会をつくる支援をしていきたい」とあいさつした。

目録を受け取ったオールしずおかベストコミュニティの鈴木良夫専務理事は、障がいがある人の自立を目指した工賃向上や民間企業への就労支援に加えて、昨年から障がい者の文化・芸術活動を支援する事業に取り組んでいることを紹介。「障がい者の働く笑顔で福祉と企業、地域と心をつなぐ支援をすることがわれわれの使命。私どもの活動趣旨に賛同しご協力いただき本当にありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えた。



ECLIPSE CROSS

クリーンディーゼル
登場



東海三菱自動車販売株式会社

本社・中吉田店 ☎(054) 261-4334
SBS通り中田店 ☎(054) 281-1200

■ 雑誌

Enterprise × Industry
eport 企業 | 産業レポート

清水エスパルス

『S-PULSE SDGs ACTION 地域と共に未来につなぐ』の取り組み開始

（株）清水エスパルス（静岡市清水区三保2695-1、左伴繁雄社長は10月16日、SDGs（持続可能な開発目標）の取り組みを積極的に行なっていくことを発表した。

クラブ創設以来継続してきた社会貢献活動をさらに充実したものにすため、SDGsが定める17の目標の内、③すべての人に健康と福祉を④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等を実現しよう⑩住み

続けられるまちづくりを⑬気候変動に具体的な対策を⑯平和と公正をすべての人に⑰パートナーシップで目標を達成しよう以上7つを優先目標に位置づけ、SDGsに取り組む。同社によると「優先的に取り組むSDGs目標を表明することはJリーグクラブ初のことになる」という。

本取り組みのキャッチフレーズを『S-PULSE SDGs ACTION』

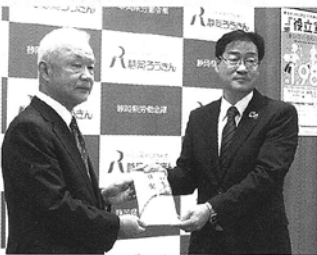
静岡県労働金庫

オールしずおかベストコミュニティに17万8320円を寄付

静岡県労働金庫（静岡市葵区西門町1-20、古川正明理事長は10月15日、認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティ（静岡市葵区呉服町2-1-5、小出隆司理事長）に17万円超を寄付した。

能な地域社会の実現に向けた活動を推進している。今回の寄付も地域社会への貢献活動の一環として行ったもので、無担保ローン「役

同金庫では、『静岡ろうきんSDGs実践方針』を策定し、誰一人取り残さない持続可



古川理事長（右）と鈴木専務理事

立宣言（オート、教育、住宅、ライフローンの4商品）の契約件数に応じて算出した17万8320円を寄付した。古川理事長は「労働金庫とSDGsの理念は合致している。S



ON 地域と共に未来につなぐ」としたと、SDGsロゴに使われている17色のテーマカラーをあしらったロゴを選定したことも紹介した。

DGsの方針に基づく社会貢献活動に力を注ぐことで、明るい社会をつくる支援をしていきたい」とあいさつした。

目録を受け取ったオールしずおかベストコミュニティの鈴木良夫専務理事は、障がいがある人の自立を目指した工賃向上や民間企業への就労支援に加えて、昨年から障がい者の文化芸術活動を支援する事業に取り組んでいることを紹介。「障がい者の働く笑顔で福祉と企業、地域と心をつなぐ支援をすることがわれわれの使命。私どもの活動趣旨に賛同し、協力いただき本当にありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えた。



東海三菱自動車販売株式会社 本社・中吉田店 ☎(054)261-4334 SBS通り中田店 ☎(054)281-1200

1) ふじのくにソーシャル・グッズ・コンテスト（赤い羽根共同募金助成事業） （旧 第 22 回 令和元年度静岡県授産製品コンクール）



▲開会式



▲審査会

授産製品の品質向上と一般の方々への周知を目的として、毎年開催しているコンクールです。本年度は、名称を「静岡県授産製品コンクール」から「ふじのくにソーシャル・グッズ・コンテスト」に変更し、食品・縫製品・雑貨の各部門の専門審査員と一般の市民から選ばれた市民審査員が、出展された授産製品を審査しました。静岡県知事賞をはじめ、5つの賞 15点が決定いたしました。出展福祉事業所数 43、出品点数 53点。特別支援学校 8校、出品点数 8点。（障害者働く幸せ創出センター・令和元年 10月 16日）

・ふじのくにソーシャル・グッズ・コンテスト入賞者対象 販売促進研修



ふじのくにソーシャルグッズ・コンテストの本年度の受賞事業所を対象に、品質向上と販路拡大を目指して、販売促進研修がおこなわれました。この研修は、コンテスト受賞者の副賞として本年度より開催されたものです。

講師：株式会社スリーパンズ

代表取締役 久保田 優 氏

（障害者働く幸せ創出センター・令和元年 11月 21日）

・令和元年度 第 21 回静岡県障害者芸術祭（表彰式・受賞作品展示）



▲表彰式 ふじのくにソーシャルグッズ・コンテスト 静岡県知事賞受賞者



▲表彰式 ふじのくにソーシャルグッズ・コンテスト 特別支援学校部門受賞者

「第 21 回 静岡県障害者芸術祭 ～共に創り、共に楽しむ～」において、ふじのくにソーシャルグッズ・コンテストの表彰式が行われ、駅を利用する人々に授産製品（福産品）を PR しました。会場には、令和元年度のコンテスト受賞製品が展示され、ステージでは、各団体の演舞や楽器の演奏などのパフォーマンスが披露され盛り上がりしました。（JR 静岡駅北口 地下広場・令和元年 12月 7日）

・ふじのくにソーシャル・グッズ・コンテスト受賞作品展示



▲ふじのくにソーシャル・グッズ・コンテスト受賞作品展示

静岡伊勢丹様では、企業理念に基づき地域の人々との触れ合いを大切に地域に根ざした社会貢献活動を行っています。本年度も、8階催事場において、県内の障害福祉サービス事業所等で製作された授産製品を表彰する「令和元年度ふじのくにソーシャル・グッズ・コンテスト」の受賞製品を、展示していただきました。年末で賑わう百貨店において、多くの市民の皆様へPRを行なっていただきました。今回は、「声かけサポーターになろう」DVDの放映、ヘルプマークの告知など、静岡県健康福祉部の活動もご紹介しました。
(静岡伊勢丹・令和元年12月26日～31日)

2) 新春講演会



▲社会福祉法人いぶき福祉会 専務理事 北川雄史氏



▲ご講演の様子

「地域でかけがえのない存在になるということ
～障害のある人の仕事づくりから取組む
新しい価値創造～」
社会福祉法人いぶき福祉会 専務理事 北川雄史氏

当日は 110 名を超える参加者に、岐阜市にある社会福祉法人いぶき福祉会の活動を通して、地域との係りなどをお話し下さりました。企業経験者の講師は、地域との係りから生まれた商品や活動を、障害者が係ることこそが価値があると講演され、県内の福祉事業所にとっては、新鮮に受けとめられました。

(グランシップ 交流ホール・令和2年1月24日)

社会福祉法人いぶき福祉会

1995年設立
岐阜市で初めての障害者分野の社会福祉法人

養護学校卒業後の行き場のない我が子のための作業所づくり


↓

どんな障害のある人もひとりひとりが主人公として安心して暮らせる「地域づくり」

↓

日中活動の事業所7ヶ所、グループホーム7ヶ所
障害のある利用者160名、職員150名

草の根ファンドレイジング
7000万 (1995年)、4000万 (1999年)
1000万 (2003年)、6000万 (2011年)



▲ご講演のスライド



▲会場外のロビーでの「とも静岡店」福産品販売会

3) “こども食堂赤い羽根バースデー” こども食堂誕生日会・授産製品応援事業



▲こども食堂「おじま分福食堂」（静岡市清水区） ケーキ提供事業所：ラポール・ファーム（静岡市駿河区）

「赤い羽根共同募金」助成事業である「こども食堂誕生日会・授産製品応援事業」は、就労継続支援事業所等の製品を「こども食堂」のお誕生日会にプレゼントするもので、こども食堂を利用する子供達と福祉事業所の工賃向上を支援するものです。令和元年度は、1年間で静岡県下57箇所のこども食堂へ、18箇所の障害福祉サービス事業所において製造されたケーキ・焼菓子をお届けしました。（静岡市清水区・令和2年1月18日）

4) 部会活動 研修情報部会による研修会

オールしずおかの会員で作る部会では定期的な意見交換を行ったり、自主研修を開催するなどして研鑽を高めます。



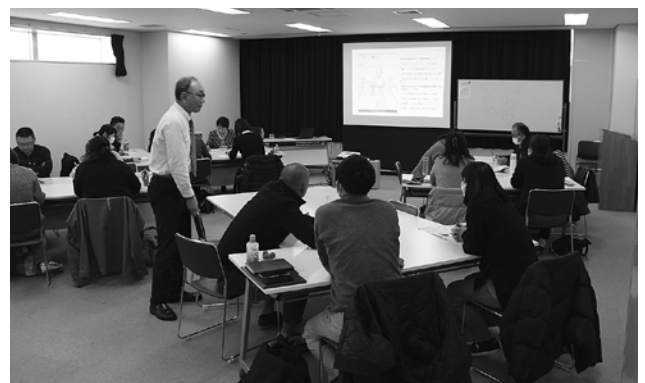
①工賃向上研修
～職員の意識改革と組織力向上を考える～
講師：NPO 法人さずな むつみ作業所 早川てい氏
（障害者働く幸せ創出センター・令和元年7月10日）



②支援力向上のためのアセスメント研修
～精神科領域から学ぶアセスメント～
講師：医療福祉法人社団至空会 多機能型事業所だんだん 金田祥史氏
（障害者働く幸せ創出センター・令和元年8月5日）



③防災研修
～被災経験者から学ぶ工夫と対策～
講師：NPO 法人みやぎセルフ協働受注センター 上村俊幸氏
（福）嶋福祉会就労継続支援B型事業所さくら学園 山崎雅博氏
（福）洗心会生活介護事業所のぞみ福祉作業所 森 伸也氏
（福）石巻祥心会障害福祉サービス事業所くじらのしっぽ 阿部かよ子氏
（障害者働く幸せ創出センター・令和元年12月6日）



④障害のある人の働き方研修
～障害者雇用先進企業に学ぶ～
講師：一般社団法人 静岡障害者就労企業交流会 福田次朗氏
（日清紡ホールディングス株式会社 新規事業開発本部 開発室 藤枝出張所所長）
（障害者働く幸せ創出センター・令和2年2月7日）

5) 静岡県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」

障害のある人の文化芸術活動を支援するため設置され、文化芸術活動に取り組む障害のある人やその家族及び支援者、障害者施設や障害福祉サービス事業所等、文化施設等を支援し、障害のある人の文化芸術活動を振興します。また、障害のある人の文化芸術活動の普及を通して、障害のある人の社会参加と障害や障害のある人に対する県民理解の推進を図ります。

A. 発表等の機会創出



① みらーと 5月展 中部
(障害者働く幸せ創出センター・令和元年5月20日～6月11日)



② みらーと 6月展 東部
(沼津商連会館ビル1階ギャラリーぷらざ・令和元年6月26日～28日)



③ みらーと 6月展 西部
(静岡県浜松総合庁舎1階ロビー・令和元年6月25日～27日)



④ みらーと 9月展 西部
(遠州信用金庫 中島支店・令和元年9月10日～20日)



⑤ ウェルカム・アーツ21展 (静岡県庁別館 21階 展望ロビー・令和元年10月3日～10日)





⑥ みらーと1周年記念パフォーミングアーツフェスタ Look@me! (JR 静岡駅 地下北口広場・令和元年9月15日)

B. 支援人材育成

B-1 支援人材育成研修



①【東部地区】第1回支援人材育成研修
「アートとこころ ～障害者の表現と魅力～」
講師：美術家 田川誠氏、助手 深澤慎也氏
(みしま未来研究所・令和元年10月29日)



②【東部地区】著作権研修（基礎編）
著作権・所有権の基礎を学ぶ
講師：弁護士・社会福祉士 山本明日香氏
(静岡県健康福祉センター・令和2年1月14日)



③【中部地区】第1回支援人材育成研修
「アート活動のヒント ～創る～ 支援で大切にしたいこと」
講師：静岡大学教育学部 美術教育 准教授 高橋智子氏
(障害者働く幸せ創出センター・令和元年12月18日)



④【中部地区】第2回支援人材育成研修
「アート活動のヒント ～魅せる、保存する～」
講師：静岡市美術館 学芸員 安岡真理氏
(障害者働く幸せ創出センター・令和元年12月23日)



⑤【中部地区】著作権研修（基礎編）
著作権・所有権の基礎を学ぶ
講師：弁護士・社会福祉士 山本明日香氏
(障害者働く幸せ創出センター・令和2年1月28日)



⑥【中部地区】著作権研修（応用編）
作品の二次利用にあたって必要な権利保護を学ぶ
講師：弁護士・社会福祉士 山本明日香氏
(障害者働く幸せ創出センター・令和2年2月5日)



⑦【西部地区】第1回支援人材育成研修
「表現者からみたアウトサイダーアート、そして障がい者の表現」
講師：美術家 乾久子氏
(遠江学園みなみ・令和元年8月6日)



⑧【西部地区】第2回支援人材育成研修
「展示会運営と展示方法と実践 みらーと西部拠点9月展の展示」
講師：浜松市 秋野不矩美術館館長・学芸員 吉川利行氏
(遠州信用金庫 中島支店・令和元年9月10日)



⑨【西部地区】著作権研修（基礎編）
著作権・所有権の基礎を学ぶ
講師：弁護士・社会福祉士 山本明日香氏
(静岡県浜松総合庁舎・令和2年1月22日)

B-2 ワークショップ



①【東部地区】「みらーと夏のパステルアート体験」
講師：パステル・和アート・インストラクター 久保寺真由美氏
(サントムーン柿田川本館・令和元年8月4日)



②【中部地区】「テラコッタ粘土で埴輪を作ってみよう」
講師：静岡大学教育学部 美術教育 准教授 高橋智子 氏
(障害者働く幸せ創出センター・令和元年12月18日)



③【西部地区】「くじびきドローイング」
講師：美術家 乾久子氏
(遠江学園みなみ・令和元年8月6日)



④【西部地区】「展示会運営と展示方法と実践 みらーと西部拠点9月展の展示」
講師：浜松市 秋野不矩美術館館長・学芸員 吉川利行氏
(遠州信用金庫 中島支店・令和元年9月10日)

B-3 オープンアトリエ



①【東部地区】「キットパスを使って自由に作品を作ろう！」
(とも沼津店内・令和2年1月16日、27日、2月20日)



②【中部地区】「キットパスを使って自由に作品を作ろう！」
(障害者働く幸せ創出センター・令和2年1月27日、2月4日)



③【西部地区】「キットパスを使って自由に作品を作ろう！」
(静岡県浜松総合庁舎・令和2年1月16日、30日、2月13日)

静岡県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」

みらーと事務局

静岡県障害者 文化芸術活動 支援センター みらーと

相談受付：平日 10:00～17:00

〒420-0031

静岡市葵区呉服町 2-1-5 「5 風来館」4 階

開館時間 9:00～18:00 土日・祝休

TEL：054-251-3520

FAX：054-251-3516

HP：https://www.mirart-shizuoka.com/

mail：info@mirart-shizuoka.com



MIRAI × ART

みらーと東部拠点

相談受付：毎週月曜日 10:00～16:00

〒410-0801

沼津市大手町 1-1-3 沼津産業ビル 1 階

とも沼津店

TEL&FAX：055-963-9100

みらーと西部拠点

相談受付：毎週月曜日 10:00～16:00

〒430-0929

浜松市中区中央 1-12-1

静岡県浜松総合庁舎 10 階

障害者働く幸せ創出センター西部拠点

TEL&FAX：053-458-7600

みらーと WEB 美術館 風を創るひとたち

WEB 美術館「風を創るひとたち」

URL <https://mirart-shizuoka.com/webmuseum/>

静岡県下の障害者アーティストの紹介・作品紹介をし、同時にアーカイブ化を進め、気軽に誰でも障害者アートに触れる機会を創出し、作家・事業所・静岡県民と企業を結ぶツールとして機能させることを目的としています。

是非、みらーと WEB 美術館「風を創るひとたち」をご覧ください！



福祉のお店

静岡県下の障害福祉サービス事業所の製品を販売しています

とも静岡店



とも

静岡市葵区駿府町 1-70
静岡県総合社会福祉会館
シズウェル1階
9:30～16:30
日・祝他休
TEL：054-251-8123



とも沼津店



とも

沼津市大手町 1-1-3
沼津産業ビル1階
9:30～16:00(平日)
9:00～14:00(土曜)
日・祝他休
TEL：055-963-9100

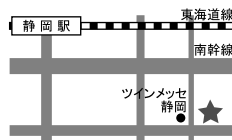


テルベ



テルベ

静岡市駿河区曲金 3-1-5
イトヨーカドー静岡店
1階 ツインメッセ側
エレベーター前
10:00～20:00
年中無休
TEL：050-1224-7044



ふじのくに
福産品
Fujinokuni
Fukusampin

▲ふじのくに福産品
ロゴマーク

障害者働く幸せ創出センター



静岡市葵区呉服町 2-1-5 「5 風来館」4階
9:00～18:00
土日・祝他休（第4日曜日は開館）
TEL：054-251-3515



障がいのある人の雇用や就労に関するご相談、会議室の提供や、図書コーナー、ふじのくに福産品の展示等のPRなど、様々な活動を行っています。どなた様もお気軽にお越しください。

こんなご相談は、オールしずおかへ！

- ◎ ノベルティグッズに、障がいのある人の作った雑貨を使い社会貢献をしたい
- ◎ 福祉事業所に仕事を発注したい
- ◎ 障がい者雇用に興味があるが、どんな制度を使えるか知りたい
- ◎ 障がいがあり働きたいが、どこに相談してよいかわからない
- ◎ ふじのくに福製品の販路拡大のアイデアがほしい etc.

お気軽に
ご相談下さい！



フレッシュな情報を発信中！

ホームページ オールしずおかベストコミュニティ

<http://www.all-shizuoka.or.jp/>

オールしずおかの活動がよくわかるサイトです。

Facebook ページ オールしずおかベストコミュニティ

<https://www.facebook.com/allshizuoka>

ふじのくに福製品 WEB カタログ

<http://s-seihin.jp/>

静岡県内の福祉事業所で作られているふじのくに福製品を閲覧できるサイトです。アイテムや地域などによる絞り込み機能や検索機能も充実。

令和2年8月発行

認定特定非営利活動法人 オールしずおかベストコミュニティ

事務局

〒420-0031 静岡県静岡市葵区呉服町 2-1-5 「5 風来館」4 階

TEL 054-251-3515 FAX 054-251-3516

Mail info@all-shizuoka.or.jp

公式 HP <http://www.all-shizuoka.or.jp>

